

## 例　　言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の1999年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国庫(3,600,000円)、県費(1,800,000円)の補助金の交付を受け、平成11年4月5日から平成12年3月31日まで実施した。

**3. 調査組織**

調査主体者	大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担当課	生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教育長	遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
教育次長	石井忠夫	大井町臨時職員・発掘調査担当者	土本医
生涯学習課長	金子忠弘		

4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。

編集：鍋島直久

執筆：本文・遺構　鍋島直久、縄文土器　今井堯

挿図割付：高橋けい子　写真図版割付：青山奈保美　土器・陶磁器復元：中田藤子　表作成：植田勢津子

土器・陶磁器実測：青山奈保美、石垣ゆき子、植田勢津子、須藤さち子、丹治つや子　トレース：小林登喜江

土器拓影・図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、植田勢津子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、山口妙子

遺構写真：坪田幹男、高崎直成、鍋島直久、土本医　遺物写真：鍋島直久、青山奈保美

土器・石器実測の一部を（有）J AWSに委託した。

また、整理作業全般において日本考古学協会員の今井堯氏の援助と協力を得た。

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略)

会田昭明、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、石原聰、市丸靖子、内田賢司、岡田憲治、加藤智香子、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、桜井信枝、笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、鈴木仁子、高貝しづ子、高橋京子、田中信、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会、(有)文化財COM。

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略)

新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、佐藤恵二、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、福田三枝子、三村美代子、若尾久美子、若林紀美代

〈整理作業参加者〉(敬称略)

青山奈保美、石垣ゆき子、伊藤弘一、植田勢津子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、福島雅子、山口妙子

## 凡　　例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30

土器実測図 1:4 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 錢 1:1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図におけるscreen-toneの指示、遺物出土状況のドットの指示。

搅乱 地山 (ローム) 烧土

土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 磁 ○

(4) 土器断面図は、「網目」が纖維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

(5) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 1999年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡名	申請地	調査面積m <sup>2</sup>	開発面積m <sup>2</sup>	原因	調査期間	調査措置
1	亀居遺跡第51地点	亀久保3街区4画地	202	222	個人住宅	11.6.15~11.7.9	教育委員会で本調査
2	亀居遺跡第52地点	亀久保7街区14画地	30	121	個人住宅	12.2.1~12.2.2	試掘調査
3	江川南遺跡第10地点	東久保2街区9・10画地	18	133	個人住宅	11.5.24~11.5.26	試掘調査
4	江川南遺跡第11地点	東久保1-122-2・4	150	465	共同住宅	11.9.20~11.9.27 11.9.28~11.10.15	試掘調査後遺跡調査会で本調査
5	江川南遺跡第12地点	東久保2街区4・5画地	14	104	個人住宅	11.10.26~11.10.28	試掘調査
6	東久保遺跡第13地点	東久保381-5	10	162	個人住宅	11.11.2	試掘調査
7	東久保遺跡第14地点	東久保18街区3画地	330	823	共同住宅	11.6.29~11.7.16 11.7.19~11.7.29	試掘調査後遺跡調査会で本調査
8	東久保遺跡第15地点	東久保5街区14~16画地	9	178	個人住宅	11.8.2	試掘調査
9	東久保遺跡第16地点	東久保15街区1~5・32画地	132	334	個人住宅	11.10.1~11.10.6	試掘調査
10	東久保遺跡第17地点	東久保381-5	121	168	個人住宅	11.6.14~11.6.15	試掘調査
11	東久保遺跡第18地点	東久保27街区2画地	409	14,989	小学校グラウンド	11.11.30~11.12.15	試掘調査
12	東久保遺跡第19地点	東久保3街区9・10画地	40	108	店舗併用住宅	11.12.20~11.12.21	試掘調査
13	東久保遺跡第20地点	東久保4街区9画地	234	478	個人住宅	12.2.28~12.3.3	試掘調査
14	東久保遺跡第21地点	東久保18街区14画地	57	114	個人住宅	12.3.23~12.3.28	試掘調査
15	東久保遺跡第22地点	東久保15街区28画地	38	150	個人住宅	12.3.22~12.3.23	試掘調査
16	亀久保堀跡遺跡第21地点	東久保262・263・266	89	232	個人住宅	11.4.19~11.4.22	試掘調査
17	亀久保堀跡遺跡第22地点	東久保5街区7・20画地	40	99	個人住宅	11.6.10~11.6.12	試掘調査
18	亀久保堀跡遺跡第23地点	東久保14街区10画地	260	386	駐車場	11.10.4~12.10.8	試掘調査
19	亀久保堀跡遺跡第24地点	東久保6街区14画地	26	105	個人住宅	11.12.14~11.12.16	教育委員会で本調査
20	東久保西遺跡第8地点	東久保9街区13画地	52	135	個人住宅	11.11.2~11.11.5	試掘調査
21	東久保西遺跡第9地点	東久保14街区1・2・12画地	335	1,074	共同住宅	12.1.28~12.2.9	試掘調査
22	東中学校西遺跡第20地点	東久保39街区1画地	461	900	区画整理	11.6.16~11.7.19	試掘調査
23	東中学校西遺跡第21地点	東久保37街区1~3画地	733	1,311	店舗	11.11.18~11.12.9	試掘調査
24	東中学校西遺跡第22地点	東久保44街区15画地	56	150	個人住宅	12.3.7~12.3.9	試掘調査
25	東久保南遺跡第18地点	東久保48街区4画地	95	202	個人住宅	11.5.14~11.5.18	試掘調査
26	東久保南遺跡第19地点	東久保60街区6画地	188	466	駐車場	11.7.8~11.7.12	試掘調査
27	東久保南遺跡第20地点	東久保49街区1画地	367	1,106	店舗	11.12.22~12.1.15	試掘調査
28	西ノ原遺跡第113地点	大井苗間57・58街区	2,000	2,817	店舗	11.4.5~11.12.14 12.1.6~12.3.13	試掘調査後遺跡調査会で本調査
29	西ノ原遺跡第114地点	西ノ原194-1	272	676	駐車場	11.8.4~11.8.12	試掘調査
30	西ノ原遺跡第115地点	大井苗間52街区3画地	31	135	事務所	11.9.27~11.9.29	試掘調査
31	西ノ原遺跡第116地点	大井苗間59街区11画地	42	119	個人住宅	11.12.2~11.12.3	試掘調査
32	西ノ原遺跡第117地点	大井苗間199-2番地	42	131	店舗併用住宅	11.12.2~11.12.4	試掘調査
33	中沢前遺跡第18地点	大井苗間1丁目12番地	110	620	店舗併用共同住宅	11.7.21~11.7.28	試掘調査
34	中沢前遺跡第19地点	大井苗間32街区1・9画地	360	1,080	共同住宅	11.7.23~11.7.30	試掘調査
35	中沢前遺跡第20地点	大井苗間33街区1画地	231	374	駐車場	11.11.25~11.11.30	試掘調査
36	中沢前遺跡第21地点	大井苗間32街区4・5画地	19	120	個人住宅	11.11.29~11.11.30	試掘調査
37	神明後遺跡第10地点	苗間298-1	3	44	個人住宅	11.9.16	試掘調査
38	神明後遺跡第11地点	苗間366	97	239	個人住宅	11.10.21 11.10.22~11.10.26	試掘調査後教育委員会で本調査
39	神明後遺跡第12地点	苗間282-2・5	8	211	共同住宅	12.3.6	試掘調査
40	苗間東久保遺跡第21地点	苗間神明後333-1	95	350	個人住宅	11.8.3~11.8.6	試掘調査
41	淨禪寺跡遺跡第18地点	苗間345-3・4	303	599	個人住宅	11.5.26~11.6.24 11.6.26~11.8.3	試掘調査後教育委員会で本調査

42	浄禪寺跡遺跡第19地点	苗間神明後345-3・4	703	703	分譲住宅	11.8.18~11.8.27	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
						11.8.30~11.9.14	
43	大井宿遺跡第1地点	苗間	110		店舗	11.8.9	試掘調査
44	大井宿遺跡第2地点	大井1丁目203	222	786	店舗	12.3.14~12.3.28	試掘調査
45	大井氏館跡遺跡第12地点	大井952	325	690	駐車場	11.5.28~11.6.4	試掘調査後 教育委員会で本調査
						11.6.2~11.6.4	
46	本村遺跡第76地点	大井苗間81街区6画地	30	118	個人住宅	11.5.15~11.5.18	試掘調査
47	本村遺跡第77地点	大井苗間107街区17・18画地	168	538	駐車場	11.7.27~11.8.2	試掘調査
48	本村遺跡第78地点	大井苗間107街区6画地	24	158	個人住宅	11.9.20	試掘調査
49	本村遺跡第79地点	大井苗間185街区9画地	201	642	個人住宅	11.10.22~11.10.30	試掘調査
50	本村遺跡第80地点	大井苗間131街区1画地	74	204	個人住宅	11.10.26~11.10.30	試掘調査
51	本村遺跡第81地点	大井苗間93-2街区3画地	36	117	個人住宅	11.12.8~11.12.10	試掘調査
52	本村遺跡第82地点	大井苗間107街区10画地	21	171	個人住宅	11.12.9~11.12.10	試掘調査
53	本村遺跡第83地点	大井苗間101街区3画地	52	181	個人住宅	11.12.9~11.12.13	試掘調査
54	本村遺跡第84地点	大井苗間102街区6画地	434	1,310	共同住宅	11.12.24~12.1.31	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
						12.2.2~12.3.6	
55	本村遺跡第85地点	大井苗間93-2街区2画地	18	409	個人住宅	12.1.6	試掘調査
56	東台遺跡第31地点	東台630-3・640-8	76	186	道路築造	11.5.7~11.5.21	試掘調査
合 計			10,603	38,443			

第3表 1999年度大井町遺跡調査会による埋蔵文化財調査一覧

	遺 跡 名	申 請 地	調査面積m <sup>2</sup>	原 因	調 査 期 間
1	東久保遺跡第13地点	東久保区画整理地内	360	区画整理道路	11.5.19~11.5.20
2	東久保西遺跡第7地点	東久保区画整理地内	452	区画整理道路	11.6.8~11.6.9・11.7.9~11.7.24
3	東久保遺跡第23地点	東久保区画整理地内	328	区画整理道路	12.3.13~12.3.16
4	江川南遺跡第11地点	東久保2街区9・10画地	368	共同住宅	11.9.28~11.10.15
5	東久保遺跡第14地点	東久保18街区3画地	406	共同住宅	11.7.19~11.7.29
6	西ノ原遺跡第113地点	大井苗間57・58街区	2,000	店舗	12.1.6~12.3.13
7	浄禪寺跡遺跡第19地点	苗間神明後345-3・4	703	分譲住宅	11.8.30~11.9.14
8	本村遺跡第84地点	大井苗間102街区6画地	1,310	共同住宅	12.2.2~12.3.6
合 計			5,927		

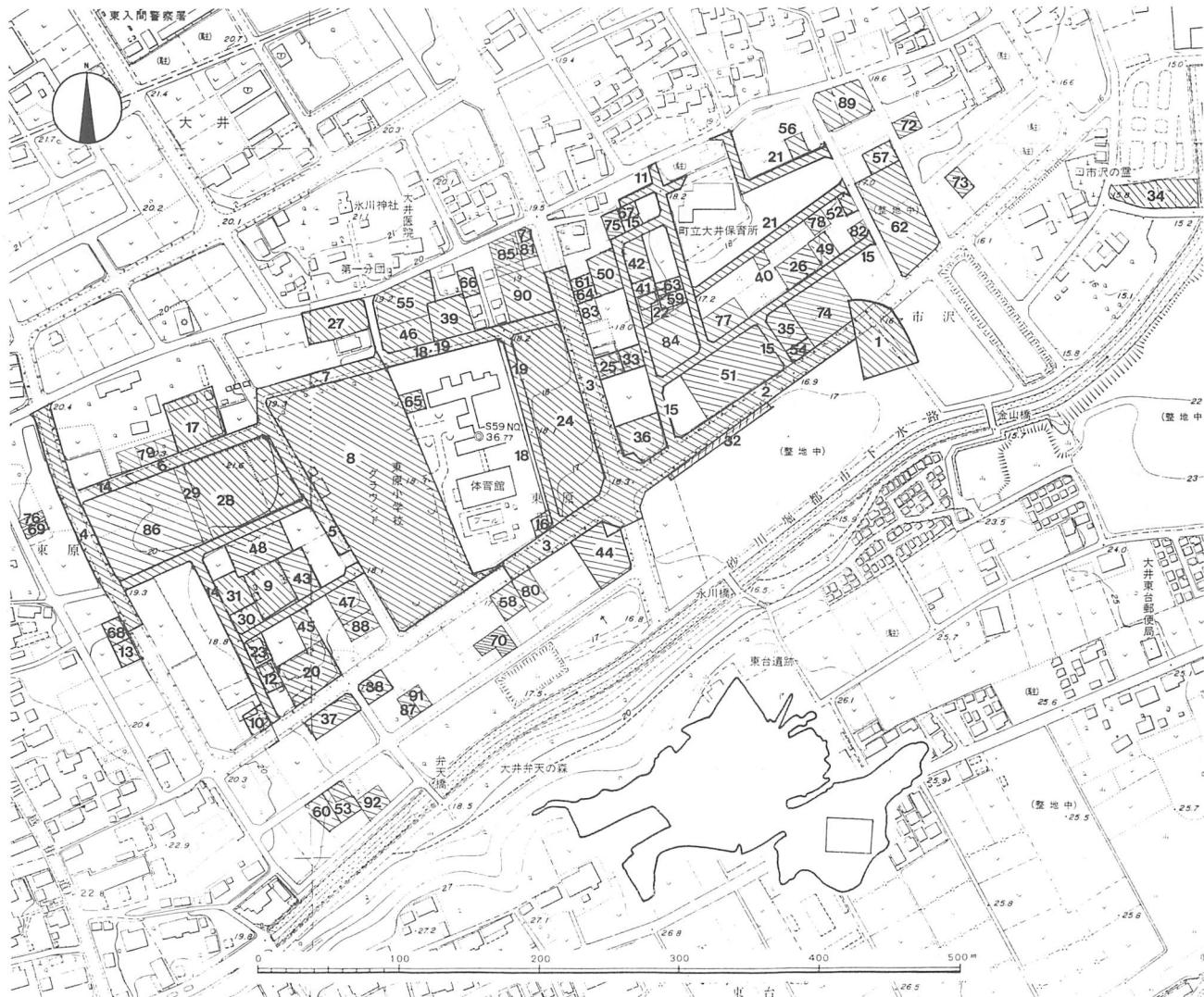
第4表 その他の立会い調査一覧

	遺 跡 名	申 請 地	開発面積m <sup>2</sup>	原 因	処 置
1	西ノ原遺跡	大井苗間16街区7画地	150	個人住宅	盛土のため調査不要
2	東久保南遺跡	東久保46街区8画地	654	駐車場	工事立会
3	亀居遺跡	西鶴ヶ岡1-1940-1	375	事務所	基礎は既存のままのため調査不要
4	本村遺跡	大井苗間113街区5画地	313	駐車場	工事着手済みのため調査不可
5	亀久保堀跡遺跡	東久保32街区2画地	200	駐車場	工事着手済みのため調査不可
6	大井氏館跡遺跡	大井苗間127街区3~5画地	128	物置	基礎の掘削せず工事立会
7	苗間東久保遺跡	苗間字東久保645-21	214	個人住宅	既存盛土のため工事立会
8	東中学校西遺跡	東久保475-4、476-1	38	個人住宅	遺跡範囲外のため工事立会

## 1 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15~20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武藏野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡を見ることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なっている。用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。町内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。



第92図 本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

## XVI 本村遺跡の調査

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡と近世の大井宿遺跡が位置する。本遺跡が中世の中心集落とするならば、大井宿が近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることができる。いずれにしても、砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2001年3月現在95ヶ所で調査を行ない、旧石器時代の礫群・石器ブロック、縄文時代の落し穴・炉穴、中世～近世の掘建柱建物・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式壙・茶毬跡等を多数検出している。

## 10 本村遺跡第84地点

### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より1999年7月19日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。

申請地は遺跡の中央部に位置し、周辺部の調査から本調査区周辺に遺構が確認されており、原因者と協議の結果、遺構の密度を確認するための試掘調査を実施した。調査は12月24日、人力による1m四方のトレンチを6個設定し調査区の土層を確認した。平成12年1月25日から調査区の南北方向に幅約2mのトレンチを6本設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行ない、多数の遺構を確認した。このため、原因者と再協議し原因者負担による本調査を実施した。

本調査は、大井町遺跡調査会が同年2月2日～3月6日まで行ない、縄文時代落し穴1基、中世の段切り遺構・井戸2基・火葬墓1基と掘立柱建物跡や土坑を検出した。(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定。)

### (2) 出土遺物

1は縄文式土器で条線文を施し、胎土に纖維は含まない。2は縄文を施すが磨滅が著しい。

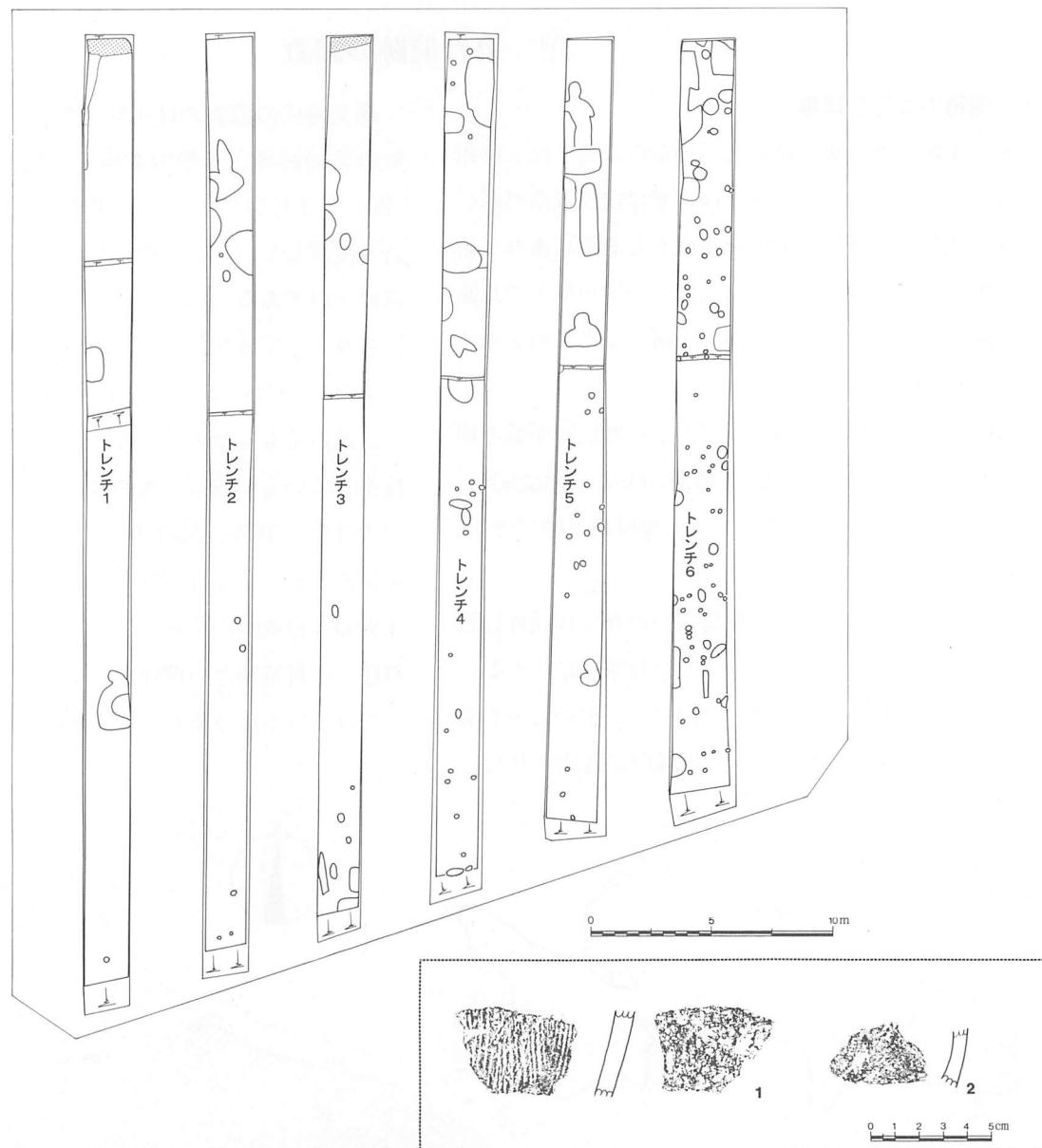
## 11 本村遺跡第85地点

### (1) 調査の概要

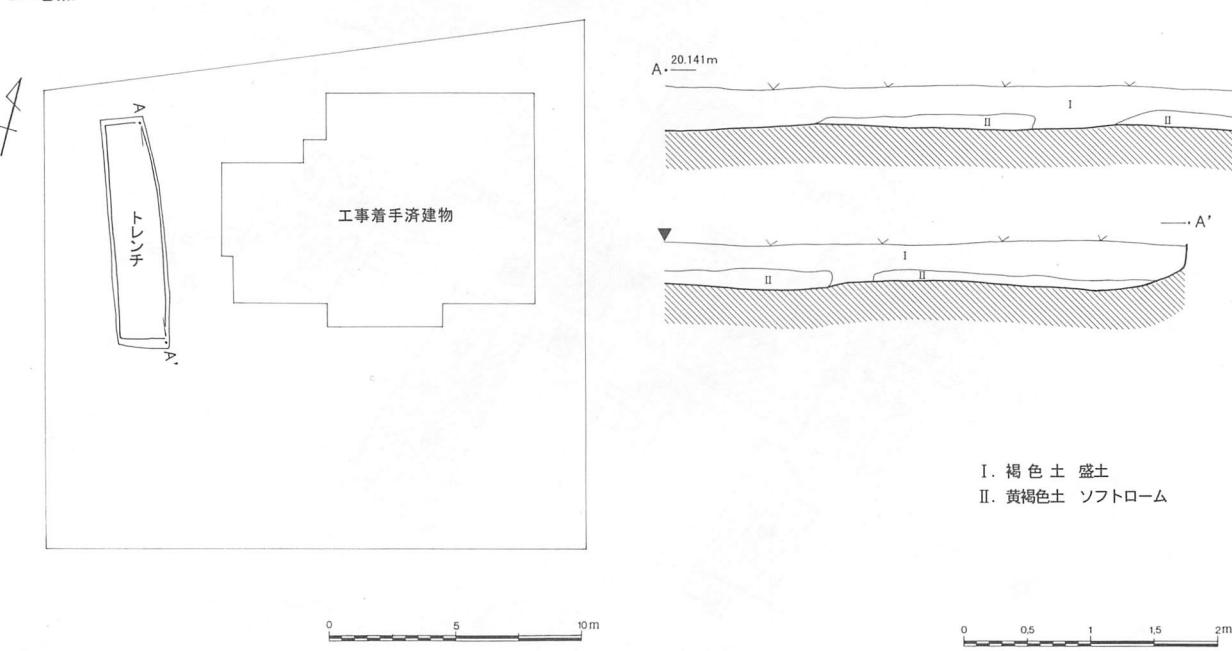
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より1999年12月21日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出されたが、既に建物基礎工事は着手されていた。原因者と協議の結果、工事を一時中断し、始末書が提出された。また、敷地内的一部で表土層の厚さと遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は幅約2mのトレンチを1本設定し、1月6日重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったが、遺構遺物は確認されなかつたので調査を終了した。

84 地点



85 地点



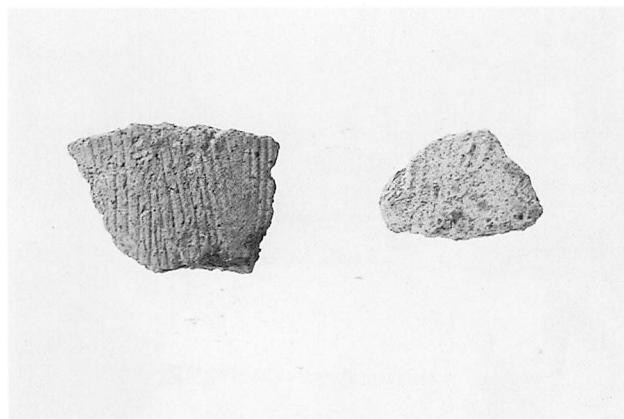
第96図 本村遺跡第84・85地点調査区域図 (1/300)・土層 (1/60)・第84地点出土土器 (1/3)



本村遺跡第84地点試掘調査風景



本村遺跡第84地点試掘トレンチ 6



本村遺跡第84地点出土遺物



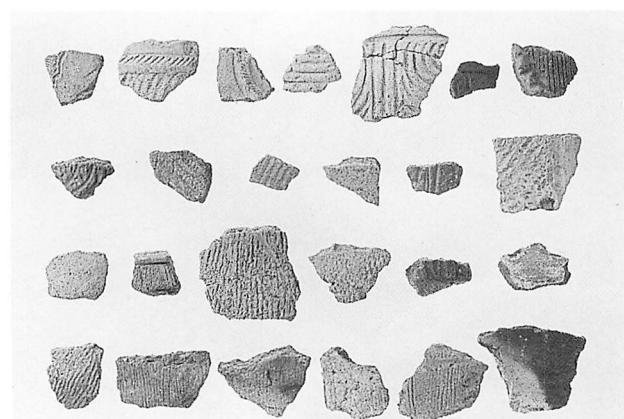
本村遺跡第85地点試掘近景



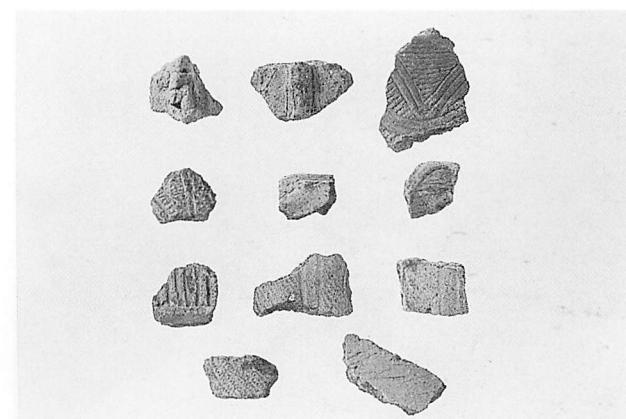
本村遺跡第85地点試掘トレンチ



東台遺跡第31地点試掘トレンチ



東台遺跡第31地点出土遺物①



東台遺跡第31地点出土遺物②

本村遺跡第84地点・第86地点

卷頭図版 1



本村遺跡第84地点 空撮



本村遺跡第86地点 空撮



本村遺跡第86地点 出土遺物No. 9・10・12・13・11



淨禪寺跡遺跡第19地点 出土遺物No.58



本村遺跡第84地点 出土遺物 No. 7（外）



本村遺跡第84地点 出土遺物No. 7（内）



本村遺跡第84地点 出土遺物No.14（外）



本村遺跡第84地点 出土遺物No.14（内）



本村遺跡第86地点 出土遺物No.17～21（左上から：外）



本村遺跡第86地点 出土遺物No.17～21（左上から：内）

## 凡　例

1. 本書の遺構挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 縮尺はその都度図中に示している。
- (2) 遺構断面図の水糸高は海拔を示す。
- (3) 遺構図における screen-tone の指示は以下のとおりである。また、遺物出土状況のドットの指示はその都度図中に示している。



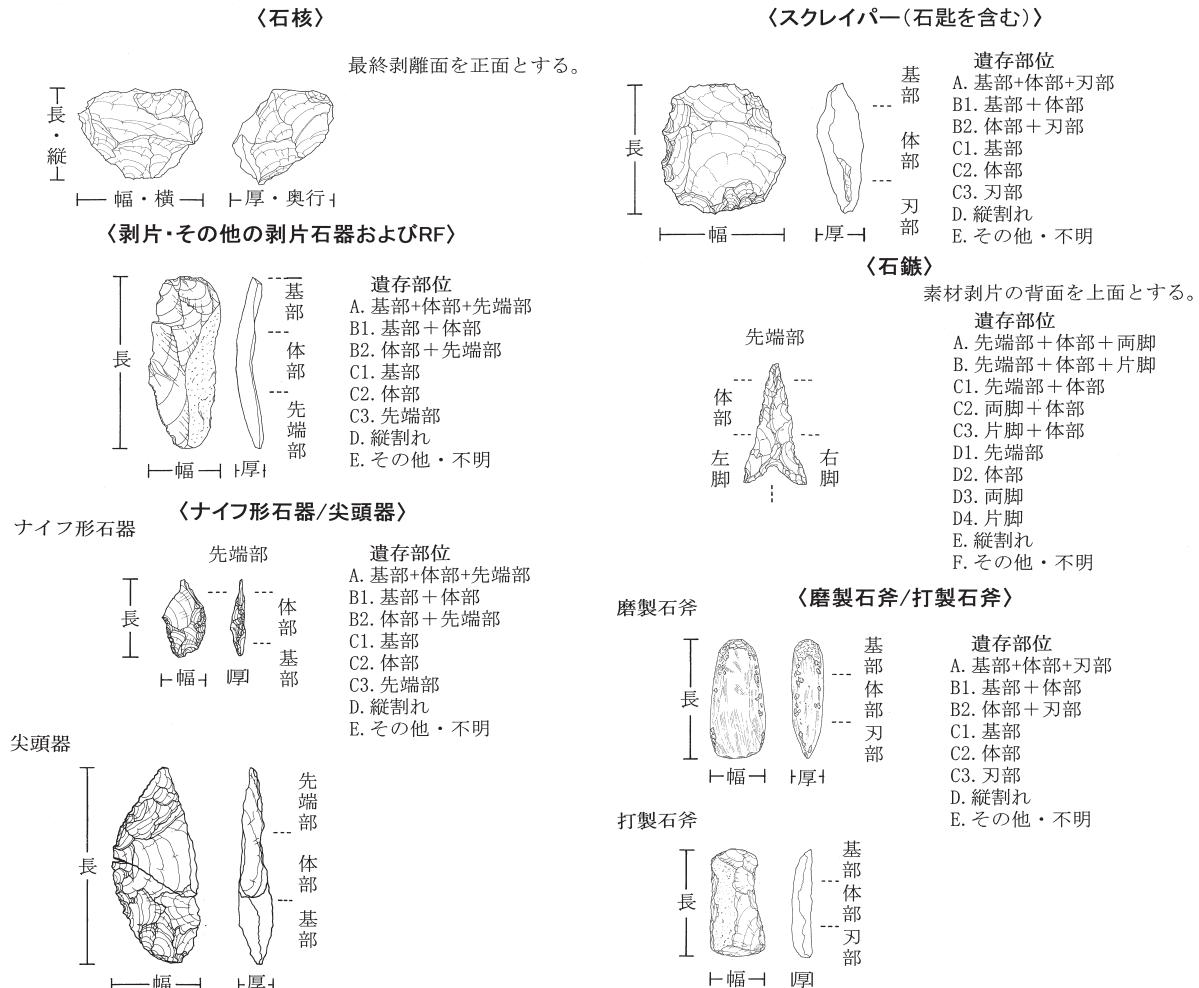
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

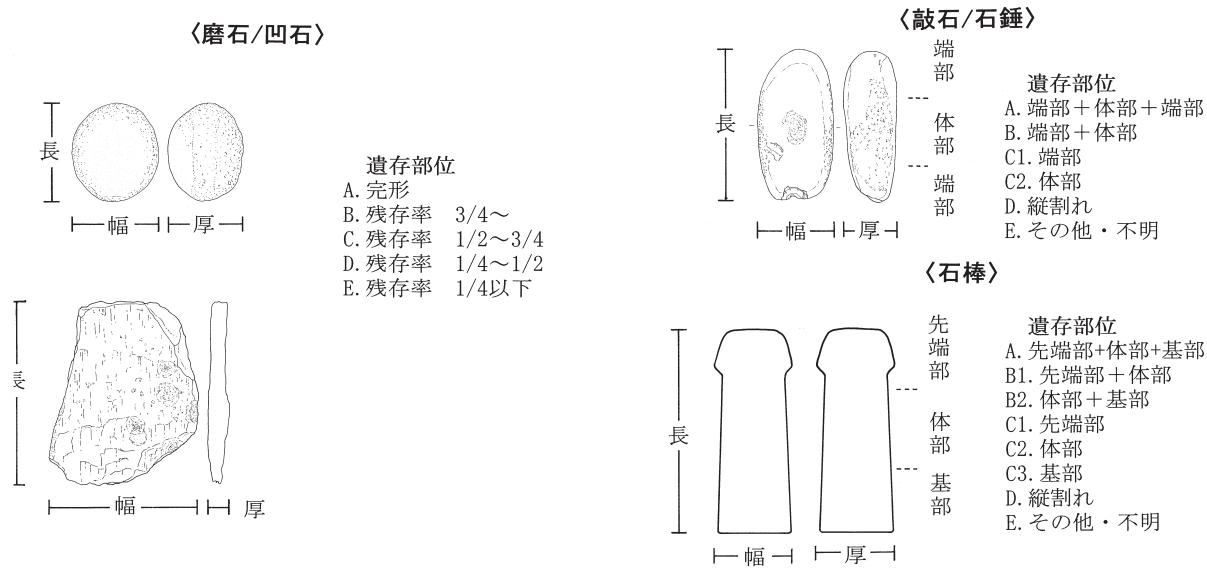
3. 本書の遺物挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 遺物番号は地点ごとに 1 からはじまる。
- (2) 砥石実測図の断面における矢印の表示は、実線が砥面を、一点鎖線が加工痕の残存面を表す。
- (3) 遺物実測図における screen-tone の指示は以下のとおりである。



4. 旧石器・縄文土器・縄文石器の出土遺物観察表に記載した計測部位及び遺存部位は以下のとおりである。





5. 旧石器・縄文時代の遺物は以下のように分類した。

#### 旧石器 石器分類表

器種	群	類		器種	群	
細石刃			(細分類無し)		I	二次加工ある剥片 (R.F.) または使用痕ある剥片 (U.F.)
尖頭器			(細分類無し)		II	縦長剥片 (石刃含む)
					III	横長剥片
					IV	石核調整剥片
					V	その他の剥片
					VI	碎片 (チップ)
					I	細石刃核
					II	石刃核
					III	その他の石核
					I	打製石斧
					II	局部磨製石斧
					III	磨製石斧
					I	片面調整礫器
					II	両面調整礫器
					I	成形・調整無し
					II	成形・調整あり
ナイフ形石器			縦長剥片 (石刃含む) 使用			
	I		1 一側縁調整			
			2 二側縁調整			
			3 基部調整			
			4 切出し形			
	II		横長剥片使用			
			1 一側縁調整			
			2 二側縁調整			
			3 基部調整			
			4 切出し形			
	III		不定形剥片使用			
			1 一側縁調整			
			2 二側縁調整			
			3 基部調整			
			4 切出し形			
角錐状石器			(細分類無し)			
スクレーパー類	I		削器			
	II		搔器			
	III		彫器			
磨石			(細分類無し)			
石皿			(細分類無し)			
砥石			(細分類無し)			

#### 縄文 石器分類表

器種	群	類		器種	群	類	
尖頭器			(細分類無し)				使用面が皿状に凹む
石錐	I		無茎		I	1	凹石と併用する
	II		有茎		2		凹石と併用しない
礫器			(細分類無し)				使用面が平坦
スタンプ形石器	I		側縁無調整		II	1	凹石と併用する
	II		側縁調整あり		2		凹石と併用しない
抉入磨石			(細分類無し)				(細分類無し)
砥石							

		短冊形	敲打器	I	成形・調整無し
		1 両側縁が直線的でほぼ平行し、基部～先端部の幅がほぼ一定		II	成形・調整あり
打製石斧	I	2 1類に近いが、両側縁がやや外に膨らむ	石匙	I	精製
		3 先端部側がやや広がる		1	横長
		4 先端部側がやや狭まる		2	縦長
		5 両側縁に括がある			粗製
		6 全体に湾曲ないし屈折した平面形を呈する		II	1 横長
		7 摻形		2	縦長
	II	8 側縁・先端とも直線的で、定角式的な形状	スクレーパー	I	削器
		9 全体に丸みを帯びる		II	搔器
	III	10 分銅形		III	彫器
	IV	11 その他	剥片類	I	2次加工ある剥片。所謂 R F
		12 略円形または橢円形の平面形を呈する		II	使用痕ある剥片。所謂 U F
		13 不定形		III	石核調整剥片
	I	14 乳棒状		IV	その他の剥片
	II	15 定角式		V	碎片
磨製石斧	I	平面形が円形	石核		(細分類無し)
		1 厚い			(細分類無し)
		2 扁平			(細分類無し)
		平面形が長円形～棒状			
	II	1 厚い	石錐	I	抉入が1対
		2 扁平		1	切り目あり
	III	平面形が隅丸方形または隅丸長方形		2	切り目なし
		1 厚い			抉入が2対以上
		2 扁平		II	1 切り目あり
				2	切り目なし
			石棒		(細分類無し)

### 縄文 土器分類表

6期区分	群	類	6期区分	群	類
草創期			中期	V	中期後葉の加曾利E式土器
早期	I	撲糸文土器		1	「加曾利E式直前」段階
	II	押型文土器		2	加曾利E I式古段階
	III	沈線文土器		3	加曾利E I式新段階
	IV	擦痕文・条痕文土器		4	加曾利E II式古～中段階
		1 無文または擦痕文		5	加曾利E II式中～新段階
		2 条痕文	VI		中期末葉の加曾利E式土器
	V	3 貝殻文		1	加曾利E III式
		前半(関山・黒浜式)		2	加曾利E IV式
		後半(諸磣・十三菩提式)			連弧文土器
前期	I	中期初頭		1	1 隆帶または微隆起線による連弧文
		1 五領ヶ台I式		2	2 沈線による連弧文
		2 五領ヶ台II式			VII 曽利式及び曾利式系統の土器
		3 五領ヶ台～猪沢のいわゆる中間型式			IX 有孔鍔付土器
		中期前葉の勝坂式系統の土器	後期	I	I 後期初頭の加曾利E式系統の土器
	II	1 猪沢式			称名寺式
		2 勝坂I式		1	1 I式古段階
	III	中期中葉の勝坂式系統の土器		2	2 I式新段階
		1 勝坂II式		3	II式
	IV	2 勝坂III式			堀之内式
		阿玉台式系統の土器		1	1式
		1 阿玉台Ia～Ib式		2	2式
		2 阿玉台II式			IV 加曾利B式
		3 阿玉台III～IV式		1	1式
		4 胎土により阿玉台式に比定しうるが、文様構成は勝坂式的である土器		2	2式
				V	V 曽谷式
					晩期

縄文土器分類における「類」は、原則として同一「群」内で時系列順(旧→新)に設定した。

### 縄文 地文分類表

分類	分類
a	矢羽状沈線文
b	半截竹管の腹による条線文
j	縄文
l	集合沈線文／太目の条線文
n	無文
r	刺突文／列点文
s	櫛齒状条線文
w	集合沈線による波状文(流水文)
y	撲糸文

## II 本村遺跡の調査

### 1 遺跡の立地と環境（第3図）

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15~20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

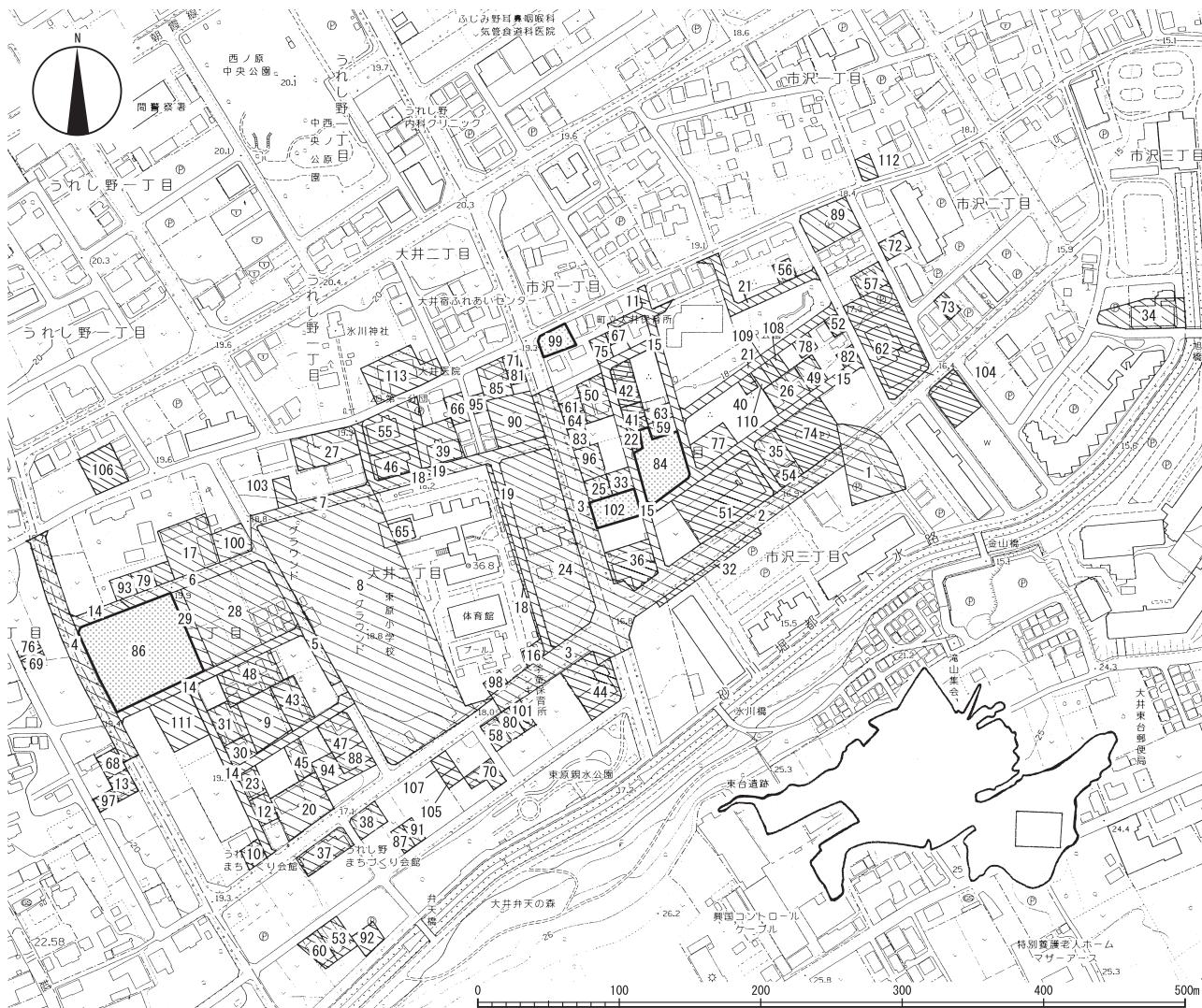
砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることができる。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川堀というのが現在の状況である。町内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を偲ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大

集落と奈良・平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場及び集落とみることができる。

いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

これまでに113ヵ所の本調査を行い、旧石器時代の礫群・石器ブロック、縄文時代の落とし穴・炉穴、中世～近世の掘立柱建物跡・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式坑・茶毬跡、近代遺構等を多数検出している。



第3図 本村遺跡の地形と調査区（1/5,000）

## 2 本村遺跡第84地点

### (1) 調査の概要

本地点は本村遺跡の中央やや東側に位置し、西側に第15地点を隔てて第33・102地点（本書掲載）、北側に第22・41・59・63地点、東側に第15地点を隔てて第77地点、南側に同じく第15地点を隔てて第51地点が隣接している。

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より1999年7月19日付けて、「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。

申請地は遺跡の中央部に位置し、周辺部の調査から本調査区周辺に遺構が確認されており、原因者と協議の結果、遺構の密度を確認するための試掘調査を実施した。調査は12月24日、人力による1m四方のトレンチを6カ所設定し調査区の土層を確認した。また、2000年1月25日から調査区の南北方向に幅約2mのトレンチを6カ所設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行い、多数の遺構を確認した。このため、原因者と再協議し原因者負担による本調査を実施した。

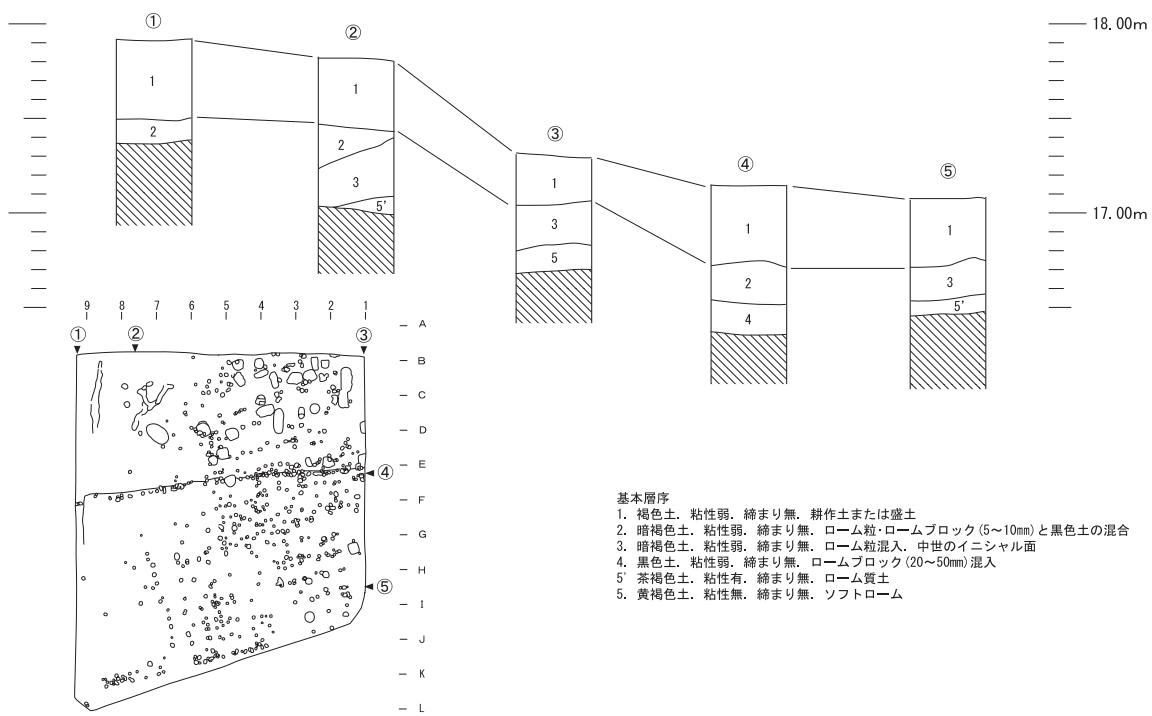
本調査は、大井町遺跡調査会が同年2月2日～3月6日まで行い、縄文時代では落とし穴1基、古代以降では茶毬跡1基・井戸2基・溝2条・柵列2列・中世の段切り状遺構1・土坑26基・掘立柱建物跡10軒と、ピット574基を検出した。

### (2) 遺構と遺物（第4～18図、第1～6表、 巻頭図版1・7、図版1～6）

#### [旧石器・縄文時代]

縄文時代の遺構として、落とし穴1・縄文ピット1が検出されている（第7図）。落とし穴はF6にて検出された。上端プランは長円形を呈し、長径290cm・短径60cmを測る。下端は幅約20cmの溝状となり、長軸方向ではややオーバーハングして長さ300cmを測る。底面は多少の凹凸はあるもののほぼ平坦で、確認面からの深さは80～90cmを測る。所謂底部ピットは確認されていない。縄文ピットはB7～8にて検出され、覆土の特徴により縄文時代の所産と推定されたものである。やや不整な円形プランを呈し、最大径約70cm、確認面からの深さは30cmを測る。

遺物は、縄文土器片6点・石器（剥片含む）12点が検出された。いずれも、井戸等歴史時代遺構や、試掘時のトレンチから出土したもので、遺構の時期を示すものではない。ここでは、その中から縄文土器2点・石器2点を抽出して図示する（第17図1～4）。1は櫛歯状条線が縦位に施され、中期末葉の曾利式系統の土器と考えられる。2は地文縄文の小片で、胎土から中期後半の所産かと考えられるが、磨耗が著しいこともあります。3はホルンフェルス製の敲石。やや扁平な棒状礫を用い、側縁の一部に調整加工が認められる。4はホルンフェルス製のスクレーパー。扁



第4図 本村遺跡第84地点 基本層序 (1/40)

平礫に、粗い刃部加工のみが施された製品である。図示したもの以外では、土器では中～後期の所産と考えられる微小破片4、石器では打製石斧の小破片1・石皿の小破片8・剥片1である。  
(桜井聖悟)

### 〔古代以降〕

本地点で検出された遺構はすべて中世以後の遺構で、古代の須恵器が出土している遺物のあり方とは異なっている。

#### ①遺構

##### 茶毘跡

調査区南側、掘立柱建物跡5（以下「掘立柱建物跡」については本文、図とも「掘立」と略す場合がある）の西側に位置する。形状は楕円形の長軸部分中央西側に張り出す突出部をもつT字形で、長軸116cm、短軸92cm、深さは最深部で14cmを測る（第7図）。突出部は緩やかに傾斜しながら土坑底部に続く。底部は若干凹凸がみられ、中央部が窪んでおり、壁の立ち上がりは明瞭ではない。土坑中央部から突出部にかけて、大量の炭化物層が確認され、炭化材、骨片が検出されている。

##### 井戸

【井戸1】調査区南東、掘立5の南側に位置する。形状はほぼ円形で、規模は111×107cm、深さ174cmを測る（第8図）。断面形は筒形で、北壁と西壁の確認面から約60cm下に、足かけ穴のような奥行き15～20cm程度の窪みを有する。覆土は人為的な堆積を窺わせており、2層には礫が多量に含まれている。遺物はすべて2層からの出土で、内訳は第6表に示した。そのうち実測可能なものは第18図に示し、これらの観察を第5表に示した。

【井戸2】調査区北東、土坑5の東に位置する。形状はほぼ円形で、規模は116×108cm、深さ192cmを測る（第8図）。断面形はU字型で、壁面は凹凸がある。覆土は人為的な堆積を窺わせる。出土遺物はなし。

##### 溝

【溝1】調査区北西、中央部の段切り部西端の延長線上に位置する南北方向の溝である。規模は長さ780cm、幅90cm、深さ28cmを測る（第9図）。溝の両端に小穴が5基、中央に1基確認されている。出土遺物はなし。

【溝2】調査区北西、溝1の東側に位置する。南北方向の溝で、北東部へ二股に分かれ延びる。規模は長さ612cm、幅75cm、深さ32cmを測る（第9図）。出土遺物

はなし。

#### 段切り状遺構

調査区中央よりやや北を、南北に2分するように南側を1段削平している。調査区西際の手前で西端が確認されており、東側は調査区外へ延びる。規模は東西32m50cm、南北は不明、比高差は東側で約20cm、中央で約18cm、西側で12cm程度である（第10図）。段切り状遺構より北の部分には多数の土坑が、段切り状遺構より南の一段低い部分には掘立柱建物跡が10軒確認されており、土地の利用の違いが明確に現れている。

#### 柵列

【柵列1】調査区の中央に位置する。径20～40cm、深さ約30～50cmのピットが、段切り状遺構に平行して、20～40cmの間隔で東西方向に並んでおり、東側は調査区外へと続く。規模は東西方向で33m80cm、南北方向は1m30cmを測る（第10図）。出土遺物はなし。

【柵列2】調査区の南端、柵列1に大体平行して位置する。径20～40cm、深さ約30～50cmのピットが東西方向に並ぶ。規模は東西方向で19m60cm、南北方向は1m20cmを測る（第11図）。ピットは柵列1と同様に20～40cm間隔で並んでいるが、中央部に3m40cm程空白部分が存在する。出入り口部であろうか。出土遺物はなし。

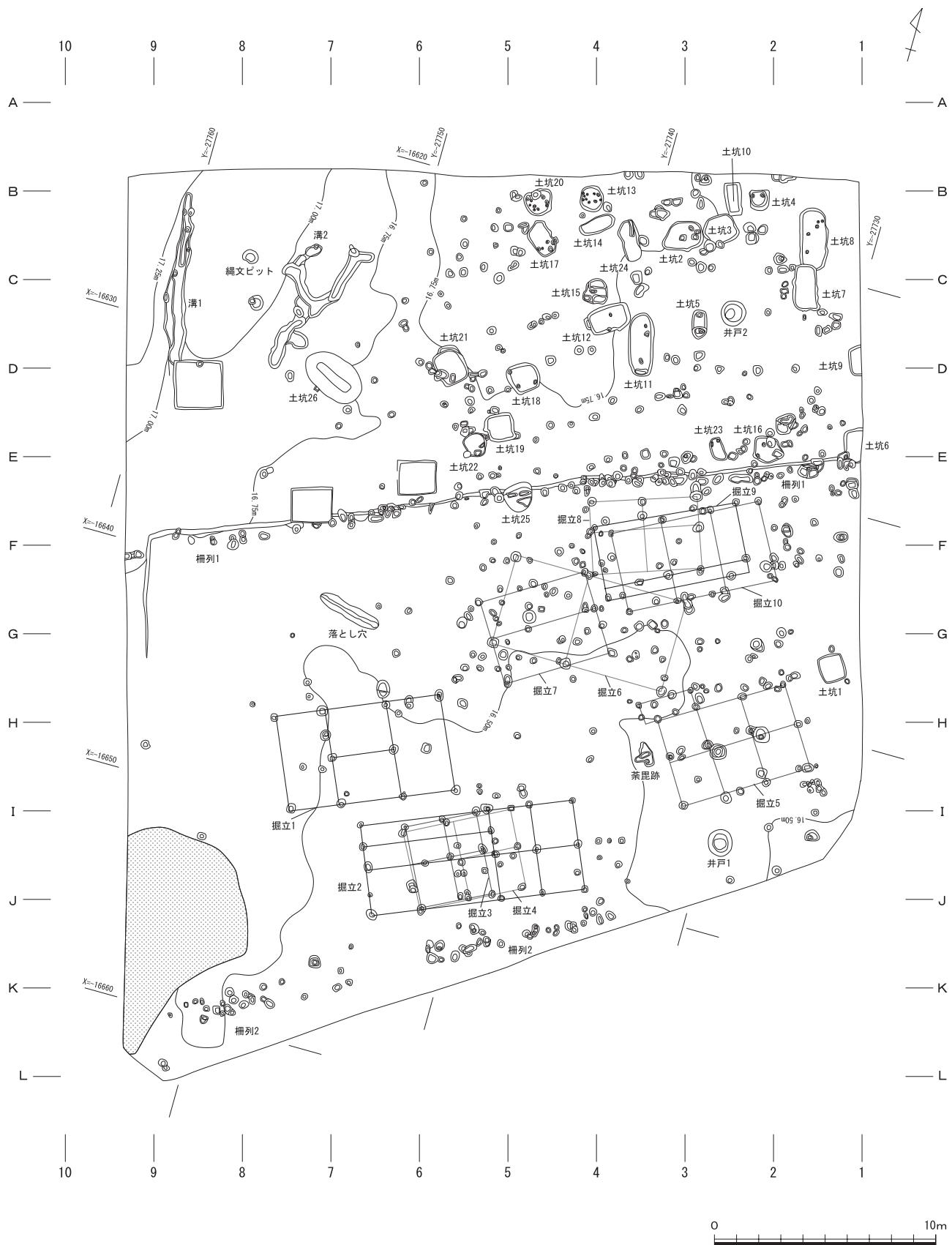
#### 土坑

土坑は形態から4分類した。

- A類 A1：長方形（土坑7・8・10・12）、  
A2：楕円形（土坑5・11・14・17・23・24）
- B類 方形（土坑1・4・6・9・18・19・21）
- C類 円形、不整円形  
(土坑2・3・13・15・16・20・22・25)
- D類 その他（土坑26）

土坑1を除き、段切り状遺構より北側、全体的に井戸2を囲むような形で分布しており、A類が最も井戸に近く、次がB類、最も外側にC類が存在している。A類の主軸はほとんどのものがN-15°-W～N-40°-Wで南北に長軸をもっており、土坑12・14はそれに直行する形でN-50°-E～N-60°-Eで東西に長軸をもっている。深さはいずれも確認面から10～30cmと浅い。密集している割に切り合いがほとんどない事から、土地の利用期間は比較的短期間で、地表に土坑の存在を認識させる土盛り等があった可能性も考えられる。以下、代表例を報告する。

【土坑1】他の土坑から離れ、調査区東側、掘立5の



第5図 本村遺跡第84地点 全体図 (1/250)

東側に位置する。平面形は方形で、規模は $127 \times 117\text{cm}$ 、深さ $16\text{cm}$ を測る（第12図）。底部は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。出土遺物はなし。B類。

【土坑11】調査区北側、井戸2の西側に位置する。平面形は南北に長軸をもつ橢円形で、規模は長軸 $284\text{cm}$ 、短軸 $112\text{cm}$ 、深さ $32\text{cm}$ を測る（第12図）。底部はほぼ平坦で南側が若干窪んでおり、浅い小穴を3基有している。壁は比較的垂直に立ち上がる。出土遺物はなし。A2類。

【土坑12】調査区北側、土坑11の西側に位置する。東西に長軸をもつ長方形で、西壁上部を攪乱に壊されている。規模は長軸 $190\text{cm}$ 、短軸 $118\text{cm}$ 、深さ $32\text{cm}$ を測る（第12図）。底部は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底部に浅い小穴を2基有している。出土遺物はなし。A1類。

【土坑20】調査区最北、土坑17の北側に位置する。平面形はほぼ円形で、規模は $125 \times 115\text{cm}$ 、深さ $18\text{cm}$ を測る（第12図）。底部は凹凸があり小穴が多数確認されている。壁は、西側は急激で東側は緩やかに立ち上がる。出土遺物はなし。C類。

【土坑26】調査区北西、溝2の東側に位置する。平面形は東西に長軸をもつ橢円形で、長軸 $280\text{cm}$ 、短軸 $160\text{cm}$ 、深さ $152\text{cm}$ を測り、礫層に達している（第12図）。底部は若干凹凸があり、断面は漏斗状で壁は底部から $80\text{cm}$ 程まではほぼ垂直に立ち上がり、少し傾斜が緩やかになり上部へと続く。形状は落とし穴と似ているが、遺物は3～4層から13世紀後半の所産と思われる須恵器系陶器の片口鉢が出土しているため、落とし穴ではないと思われる。D類。

#### 掘立柱建物跡

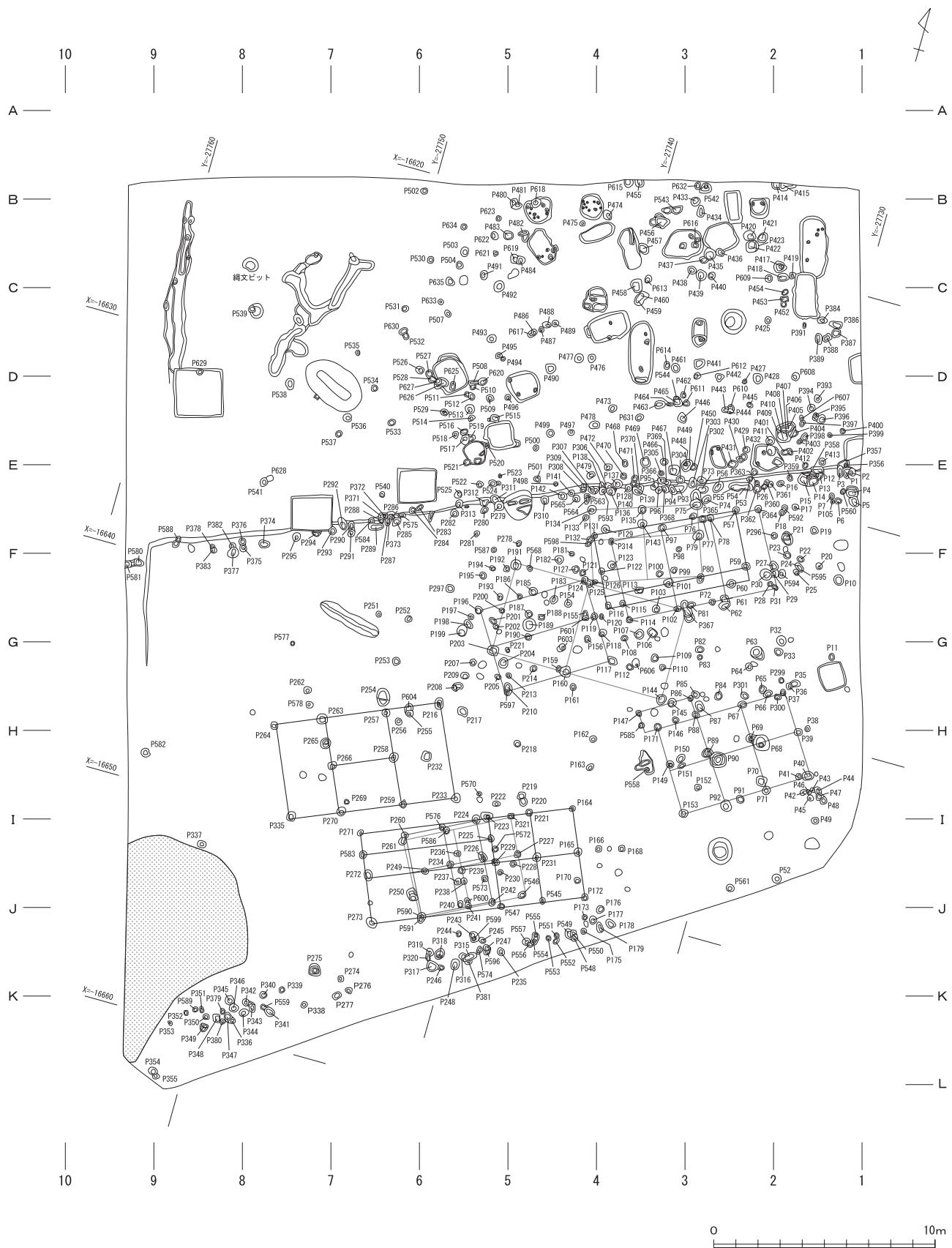
【掘立1】P 216・233・259・270・335・264・263・257を側柱とし、平面形は桁行 $750\text{cm}$ 、梁行 $435\text{cm}$ の長方形を呈す（第13図）。面積は $32.625\text{m}^2$ で、柱間は側柱で桁行三間、梁行一間となっているが、P 257とP 259の中間にP 258が、P 263とP 270の中間にP 266が存在し、屋内の梁行は二間となっている。柱間寸法はP 216～257間が $240\text{cm}$ 、P 257～P 263間が $270\text{cm}$ 、P 263～264間が $240\text{cm}$ で、P 257～P 258間とP 258～259間が $217.5\text{cm}$ と同寸法である。なおP 216とP 257の間のP 604やP 263とP 266の間のP 265は柱筋が並び、P 265は間仕切りのためのものか。またP 604は浅いために通常の側柱とは思えないが、位置が近世民家に多くみられる「ダイドコロ」特に「ナガシ」が位置するところにある。

り、P 255やP 256とともにこうした施設と関連する柱穴であろうか。この推測が正しいとすると、P 254はやはり近世民家に多くみられる「ダイドコロ」の裏にある「カメ」などを置いた雑廐水を流す施設の痕跡とも考えられる。また、本建物の屋内柱であるP 258・266は棟筋に位置し、東西の側柱にこれら2本の柱に伴うものがないことから、この2本が屋内棟持柱として機能したものであろう。したがって本建物の屋根は切妻ではなく、寄棟か入母屋であろう。こうした小屋組構造は掘立5も同様であろう。

【掘立2】P 164・172・273・271を側柱の四隅と考える長方形の建物（第14図）が想定されるが、側柱のP 271とP 223の間が $580\text{cm}$ ときわめて柱間寸法が長い。そのほかP 271の南側P 583とP 225も同様で、P 272・249・229の柱筋についてもP 272～249間が $270\text{cm}$ 、P 249～229間が $320\text{cm}$ と長い。これに対し、本建物の東側はP 164・165・172・545・547・229・223・221がほぼ正方形に規則正しく並ぶ。すなわちP 164～172間が柱間寸法 $200\text{cm}$ で二間、P 164～223間が柱間寸法 $190\text{cm}$ で二間という配置で、しかも中心にP 231が位置している。この規則正しい二間四方の建物に対して、西側の柱穴のまばらな配置は不自然である。もちろん西側のP 271・583・272・273は東側の二間四方の部分と離れていると言っても偶然とは思えないほど柱筋は通っている。しかも北辺と南辺に土台をすえてそこから柱を立てたとするならば、こうした柱穴配置もあり得よう。したがって掘立2の場合、P 271・583・272・273・249が別の施設とみなしたP 164・165・172・545・547・229・223・221を側柱とする二間四方の建物とP 164・172・273・271を四隅とする長方形の建物の二つの可能性を指摘しておく。

【掘立3】P 224・226・242・240・590・260・576を側柱とし、中心にP 234を配した東西 $325\text{cm}$ 、南北 $370\text{cm}$ の方形建物跡である（第14図）。面積は $12.025\text{m}^2$ 、柱間は東西二間で柱間寸法がP 260～576間 $170\text{cm}$ 、P 576～224間 $150\text{cm}$ である。南北は東側が二間であるものの、西側は一間で、柱間寸法が東側のP 224～226間が $170\text{cm}$ 、P 226～242間が $200\text{cm}$ 、西側のP 260～590間が $370\text{cm}$ を測る。このように本建物は西側の柱間寸法が長すぎるため不自然な感があり、やはり本建物も西側は土台をすえた可能性がある。

【掘立4】P 321・227・546・241・591・250・261・586を側柱とし、桁行 $495\text{cm}$ 、梁行 $360\text{cm}$ の長方形を呈



第6図 本村遺跡第84地点 ピット全体図 (1/250)

する（第14図）。面積は17.82m<sup>2</sup>である。柱間は桁行、梁行とも二間であるが、東側の側柱はP 321～227間とP 227～546間が双方180cmと等間隔であるのに対し、西側の側柱はP 261～250間が230cm、P 250～591間が130cmとかなり差がある。また桁行でも北側のP 321～586間が300cm、P 586～261が195cm、南側のP 546～241間が270cm、P 241～591間が225cmと不揃いである。しかも梁方向のP 586とP 241はややずれた位置にあり、双方の柱の上に梁が乗っていない可能性もある。軸部を京呂組とし、上屋桁の上に梁を乗せていたのだろうか。さらに屋内柱のあり方をみると、P 227・229・239が棟木及び丑梁に関連する柱穴と考えられるが、この並びが西側の側柱の中にみられない。やはり西側は土台がすえられていたのだろうか。また、このP 229の南北に位置するP 230・572及びP 239の南北に位置するP 238・236はほぼ等間隔に並び、建物内の間仕切りを想起させる配置となっている。となると本建物のP 586からP 241のラインから東側は間仕切りを有する座敷あるいは土座が存在し、西側は内部に柱穴をもたないことから土間であった可能性が考えられる。

**【掘立5】**P 37・39・40・71・92・153・149・171・88・67を側柱とし、桁行600cm、梁行400cmの長方形を呈すが、北西部に240cm×90cmの張出し部を有する（第15図）。面積は側柱（身舎）内で24m<sup>2</sup>である。柱間は桁行三間、梁行二間で、柱間寸法はほとんど200cm間隔だが、P 171～149間が175cmと短くなっている。やや不正確な総柱建物のようであるが、屋内柱P 89と90、P 68と69が重複しているところをみると建替があったものと考えられ、東西の梁行に位置するP 39とP 149は柱筋からみても同時に存在したのか疑問も残る。むしろ4本の屋内柱の大きさが他の柱穴よりも大きいことから、これらの柱穴は掘立1と同様、屋内棟持柱と考えられ、寄棟か入母屋の屋根を有する建物と考えられる。

**【掘立6】**P 367・144・160・203・191・125を側柱とし、平面形は桁行795cm、梁行410cmの長方形を呈す（第16図）。柱筋にはP 111・200・201・568などものるが、対応する柱穴がなく、本建物に属するかは不明。面積は32.595m<sup>2</sup>と本地点では掘立1に次ぐ大きさである。ただ柱間が桁行二間、梁行一間で、柱間距離が桁行P 367～125間で460cm、P 125～191間で335cm、梁行410cmときわめて長いことと、主軸方位が他の建物と著しく異なるため特異な建物と捉えられる。側柱の内

側にもいくつもの柱穴が存在するが、これといって本建物と関連すると思われる柱穴はみられてないので、構造上にも問題のある建物である。

**【掘立7】**P 124・119・117・160（掘立6と重複か）・597・203（掘立6と重複か）・196・185を側柱とし、平面形は桁行495cm、梁行385cmの方形を呈す（第16図）。柱筋にはP 118・186などものるが、対応する柱穴がなく本建物に属するかは不明。面積は19.06m<sup>2</sup>で柱間は桁行、梁行ともに二間とみられ柱間距離は、桁行P 124～185間が240cm、P 185～196間が255cm、梁行P 124～119間で185cm、P 119～117間で200cmを測る。なお、P 119と203の柱筋にのるP 190は屋内柱の可能性がある。

**【掘立8】**P 75・79・80・126・132・134・135を側柱とし、平面形は桁行480cm、梁行330cmの方形を呈す（第16図）。面積は15.84m<sup>2</sup>で、柱間は桁行の北側が二間、南側が一間、梁行は東西とも二間である。柱間寸法は桁行P 75～135間が245cm、P 135～134間が235cm、梁行P 75・79間が130cm、P 79・80間が200cmを測る。梁方向のP 135に対応する柱穴がみられず、構造上に問題を残す。

**【掘立9】**側柱の位置に問題のある建物である。すなわちP 57・59・80・101・113・129・143・76が側柱と考えられるが、南西隅に位置するはずの柱穴がない（第16図）。ただし西側に位置するP 131・122・116と南側のP 116・115・60が下屋柱だとすると、P 129・115間とP 131・122・116間に梁をかけ、P 59からP 113への柱筋にかかる上屋桁をこの2本の梁で受けているのだろうか。これが正しいとすると本建物は身舎で桁行590cm、梁行270cm、下屋を含めると桁行650cm、梁行320cmの長方形を呈す。面積は母屋で15.93m<sup>2</sup>、下屋を含めると20.80m<sup>2</sup>である。柱間は母屋で桁行が北側三間、南側四間と変則で、梁行は一間となっている。したがって柱間寸法もまちまちで、P 57～76間が200cm、P 76～143間が230cm、P 143～129間が160cm、P 59～80間が200cm、P 80～101間が170cm、P 101～113間が130cm、P 113からP 129・115の柱筋までが90cm、そこからP 131・116の柱筋までが60cmとなっている。なお西側の下屋にはP 131～116間にP 122が存在し、この間を160cm間隔で2等分している。

以上のような柱配置からみると軸部は京呂組と考えられる。

**【掘立10】**P 364・31・61・102・114・314・97・78を

第1表 本村遺跡第84地点 遺構一覧表

( )内は残存値及び確認された規模、備考欄の写番号は写真図版番号

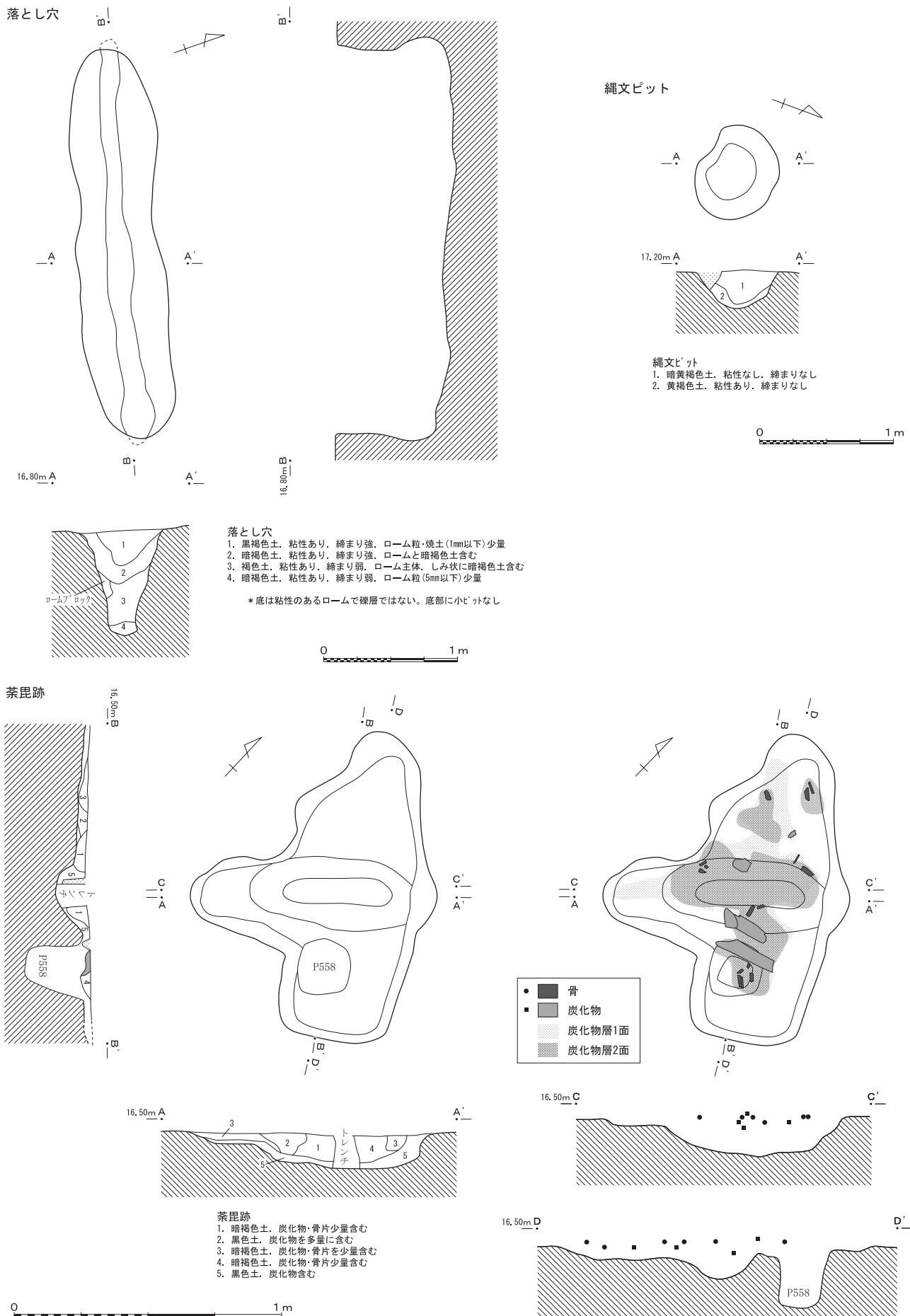
図版番号	遺構名	グリッド	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	標高(m)	主軸方位	遺物	時期	備考
5・7	落とし穴	F6.7	長円形	292	64	82	15.63	N-76° -W	○	縄文	写1
	縄文ピット	B7	楕円形	70	56	26	16.83	-		縄文	
	茶毘跡	H3	T字形	116	92	14	16.33	N-37° -W	○	中世	P558と切り合う。人骨出土／写4
5・8	井戸1	I2	円形	111	107	174	14.70	-	○	中世	写4
	井戸2	C2	円形	116	108	192	14.75	-	○	中世	写4
5・9	溝1	B.C8	-	780	90	28	16.52	N-12° -W		中世以降	写4
	溝2	B.C6.7	-	612	75	32	16.52	N-21° -E		中世以降	写4
5・10	段切り状遺構	A～G19～9	-	3250	600	20	16.40	N-69° -E		中世	柵列1と切り合う／写5
	柵列1	D～F1～9	-	3380	130	56	15.72	N-69° -E		中世	土坑6・25と切り合う。P1・2・3・12～16, 26・53～56, 73・93・94・95・96・128・136142・279・282～290, 292～295, 302～304, 307～313, 356～363, 366・368～378, 382・383・412・413・432・470・471・498・539・563～565, 575・580・581・584・588・593／写5
5・11	柵列2	I～K3～9	-	1960	120	72	15.80	N-61° -E		中世	P173・175～179, 135・243・244・246～248, 274・275・278・315～320, 336・339～349, 379～381, 548～557, 559・574・589・596・599／写5
5・12	土坑1	G1	方形	127	117	14	16.28	N-32° -W		中世以降	写1
5	土坑2	B2.3	不整円形	193	130	23	16.56	-		中世以降	P616と切り合う。小穴3あり／写1
	土坑3	B2	不整円形	148	128	25	16.50	-		中世以降	土坑10より新。P435・436と切り合う／写1
	土坑4	A.B2	方形	92	83	18	16.50	N-32° -W		中世以降	写1
	土坑5	C2	楕円形	132	68	21	16.54	N-16° -W		中世以降	小穴2あり／写1
	土坑6	D.E1	方形	153	(82)	16	16.38	N-22° -W		中世以降	P1・2・356・357と切り合う／写1
	土坑7	B.C1	長方形	203	103	26	16.44	N-16° -W		中世以降	土坑8より新。P419と切り合う／写2
	土坑8	B1	長方形	190	121	28	16.41	N-16° -W		中世以降	土坑7より旧／写2
	土坑9	C.D1	方形	136	(56)	15	16.44	N-22° -W		中世以降	写2
	土坑10	A.B2	長方形	146	73	33	16.37	N-22° -W		中世以降	土坑3より旧／写2
	土坑11	C.D3	楕円形	284	112	20	16.45	N-16° -W		中世以降	小穴4あり／写2
5・12	土坑12	C3.4	長方形	190	118	32	16.39	N-57° -E		中世以降	小穴2あり／写2
	土坑13	A.B3.4	円形	117	104	18	16.59	-		中世以降	写2
	土坑14	B3.4	楕円形	118	122	19	16.54	N-54° -E		中世以降	写2
	土坑15	B.C3.4	不整円形	115	108	8	16.70	-		中世以降	
	土坑16	D.E1.2	不整円形	140	122	11	16.51	-		中世以降	小穴4あり／写3
	土坑17	B4	楕円形	154	102	15	16.62	N-42° -W		中世以降	写3
	土坑18	C.D4.5	方形	137	130	23	16.47	N-31° -W		中世以降	小穴3あり／写3
5・12	土坑19	D4.5	方形	122	120	22	16.43	N-22° -W		中世以降	P515・520と切り合う／写3
	土坑20	A.B4	円形	125	115	18	16.60	-		中世以降	P618と切り合う／写3
5	土坑21	C.D5	方形	158	132	20	16.50	N-47° -W		中世以降	P528・625・626・627と切り合う／写3
	土坑22	D5	円形	110	100	15	16.48	-		中世以降	P517・519・520・521と切り合う／写3
	土坑23	D.E2	楕円形	108	58	17	16.46	N-36° -W		中世以降	小穴2あり／写3
	土坑24	B3	楕円形	184	78	12	16.60	N-32° -W		中世以降	写4
	土坑25	E4.5	不整円形	138	130	25	16.44	-		中世以降	写4
5・12	土坑26	C.D6.7	楕円形	280	166	152	15.25	N-65° -W	○	中世以降	写4
5・6・13	掘立1	G.H5～7	長方形	750	435	面積=32.625m <sup>2</sup>	N-67° -E			中世以降	P216・233・257・258・259・263・264・266・270・335写5
5・6・14	掘立2	H～J4～6	長方形？方形？	410	380	面積=15.58m <sup>2</sup>	N-67° -E			中世以降	P164・165・172・221・223・225・229・231・249・271・272・273・545・547・572・583写5
	掘立3	H～J5～7	方形	370	325	面積=12.025m <sup>2</sup>	N-63° -E			中世以降	P224・226・234・240・260・576・590写5
	掘立4	H～J4～6	長方形	495	360	面積=17.82m <sup>2</sup>	N-62° -E			中世以降	P227・236・238・239・241・261・321・546・586・591写5
5・6・15	掘立5	G.H1～3	長方形	600	400	面積=24m <sup>2</sup>	N-57° -E			中世以降	P37・39・40・67・68・69・71・84・85・86・87・88・89・90・92・145・146・147・149・153171・299・585／写5
5・6・16	掘立6	F.G2～5	長方形	795	410	面積=32.595m <sup>2</sup>	N-1° -E			中世以降	P125・144・160・191・203・367
	掘立7	F.G3～5	方形	495	385	面積=19.575m <sup>2</sup>	N-62° -E			中世以降	P108・117・119・124・185・196・203・597写5
	掘立8	F.G4.5	方形	490	330	面積=15.84m <sup>2</sup>	N-71° -E			中世以降	P75・79・80・126・132・134・135
	掘立9	E.F2～4	長方形	650	320	面積=20.80m <sup>2</sup>	N-63° -E			中世以降	P57・59・76・80・101・113・115・116・123・143写5
5・6・17	掘立10	E.F2～4	長方形	680	370	面積=25.16m <sup>2</sup>	N-61° -E	○	中世以降	P31・61・78・97・102・114・122・129・131・314・364写5	





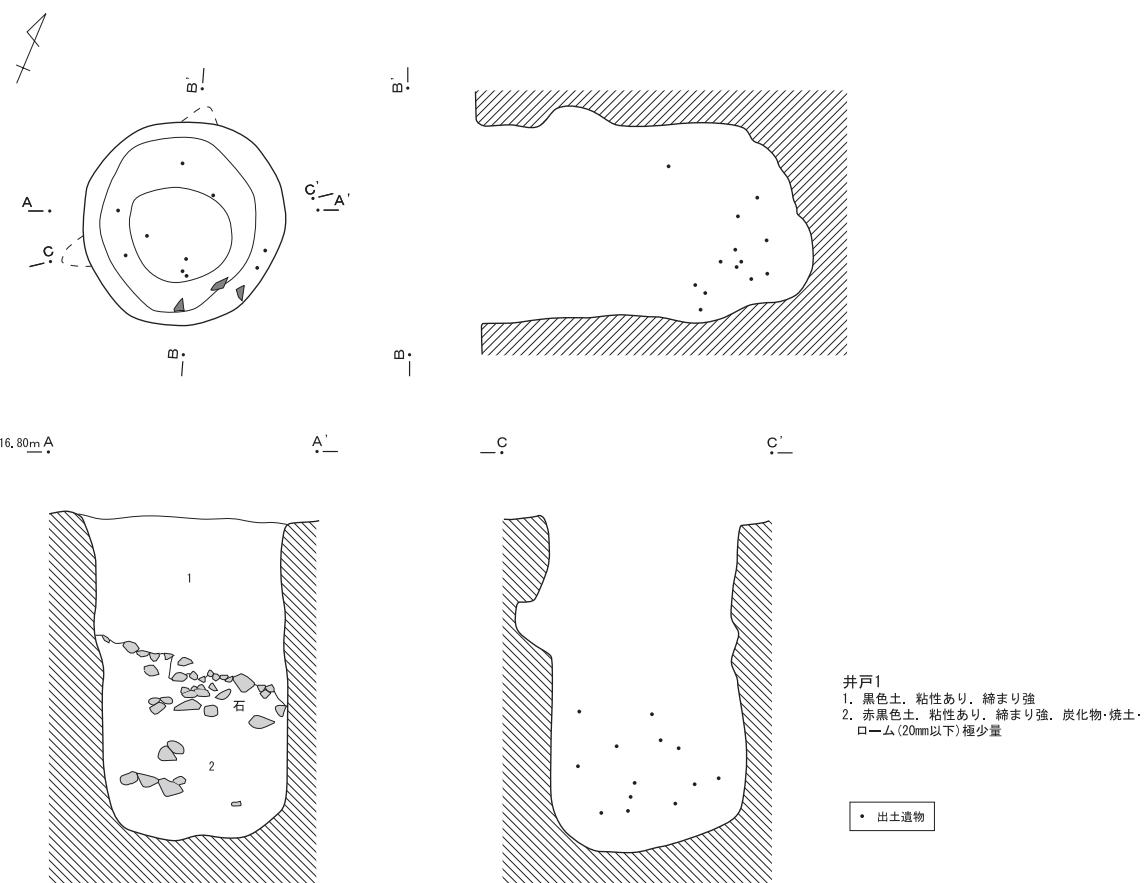




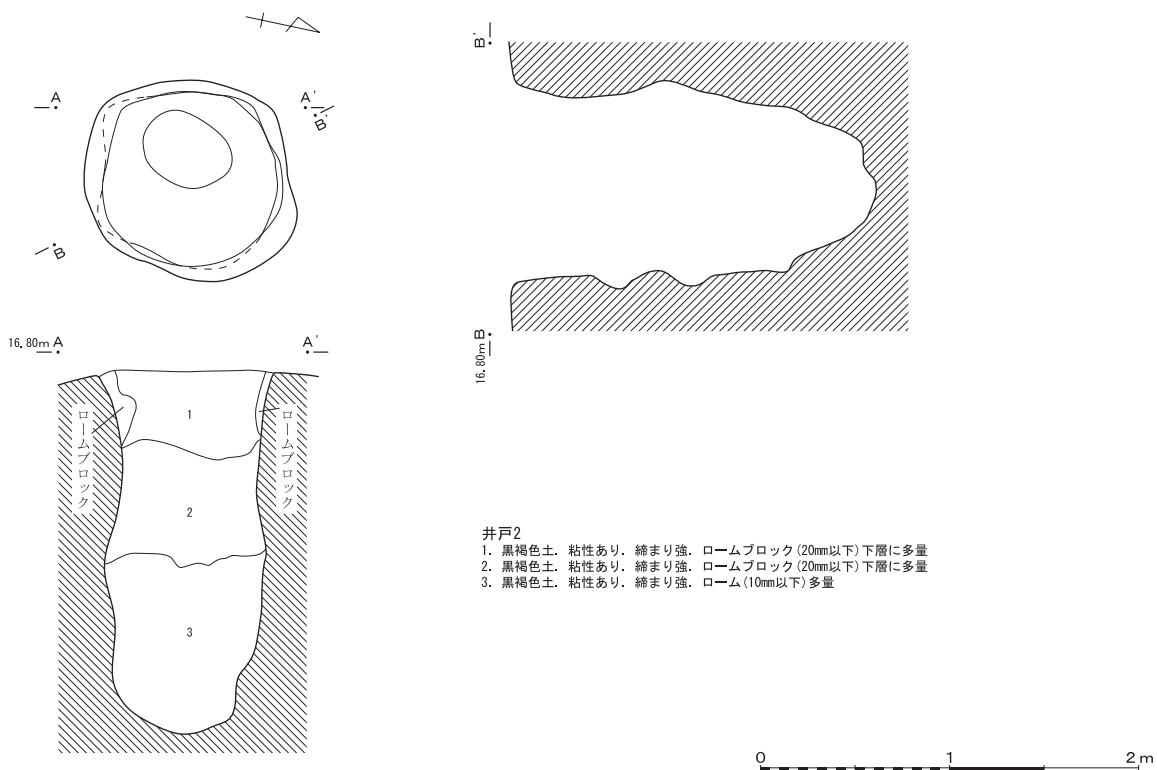


第7図 本村遺跡第84地点 落とし穴・縄文ピット (1/40)、茶毘跡 (1/20)

井戸1

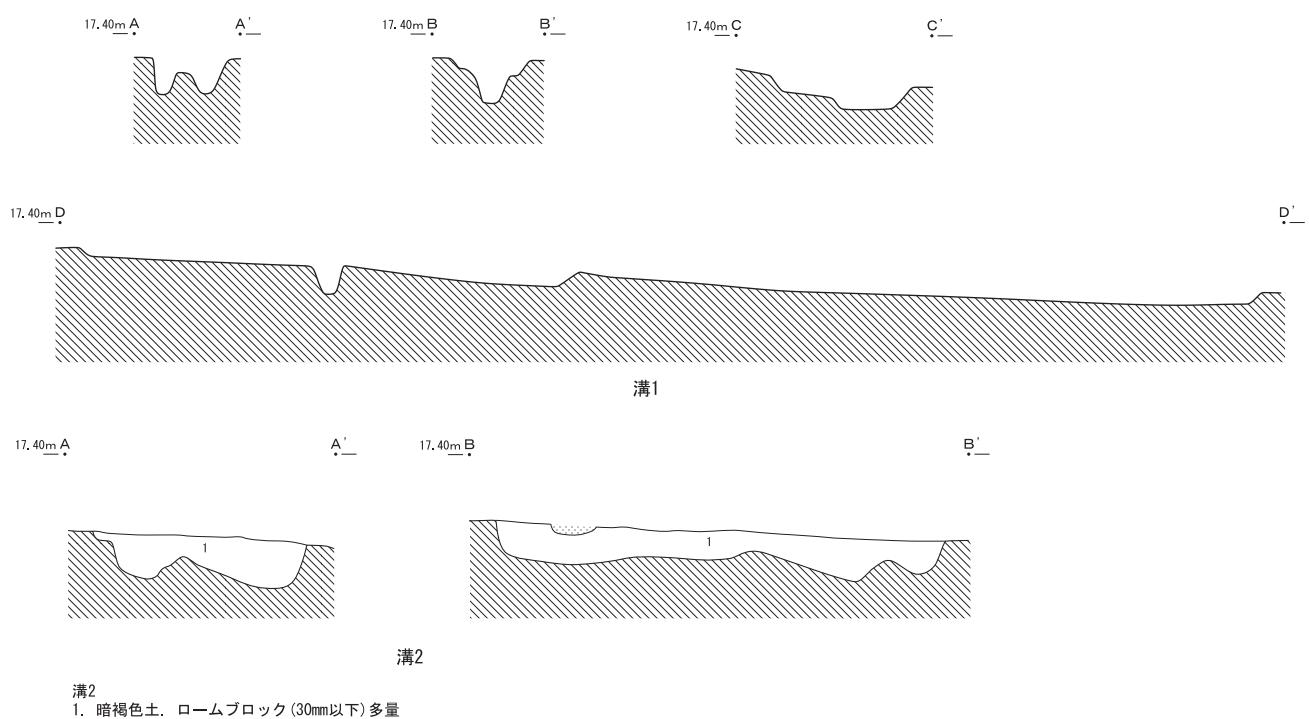
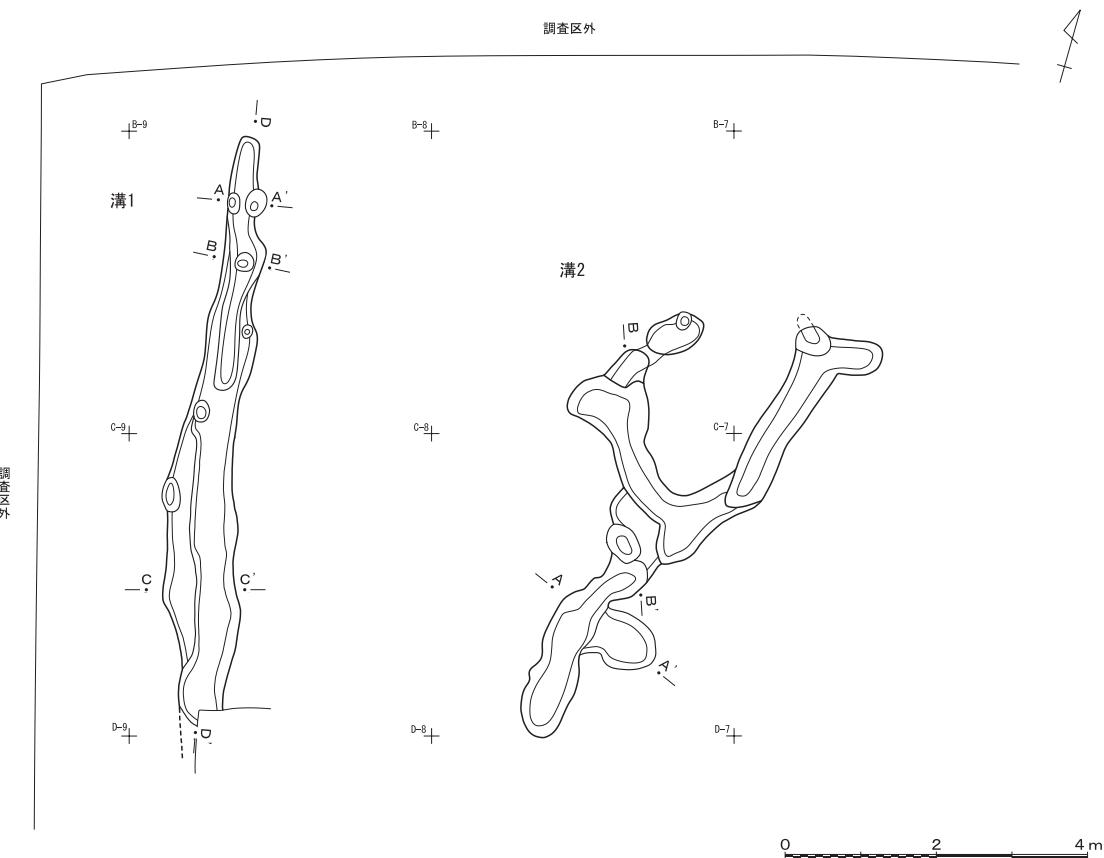


井戸2



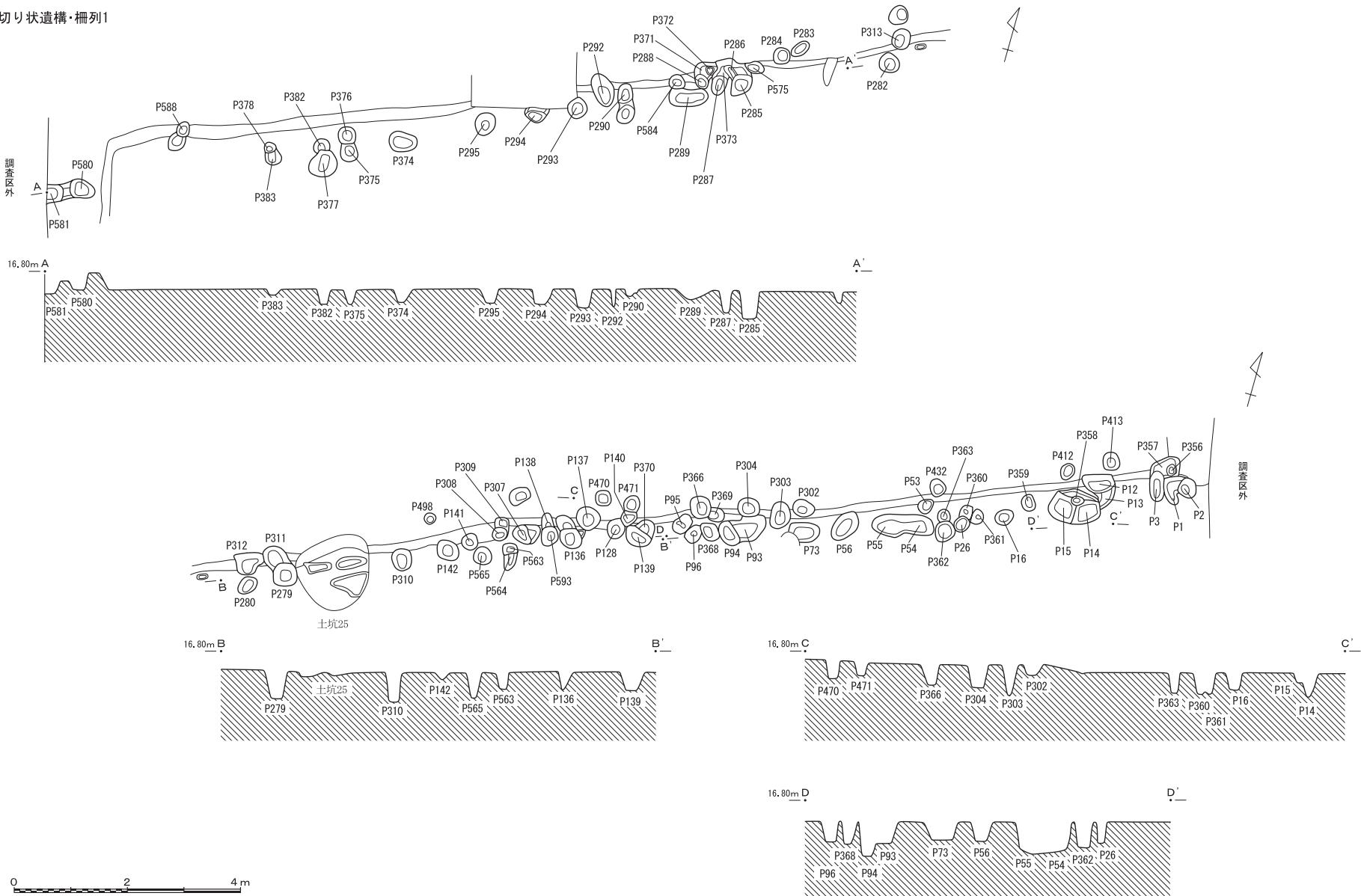
第8図 本村遺跡第84地点 井戸1・2 (1/40)

溝1・2



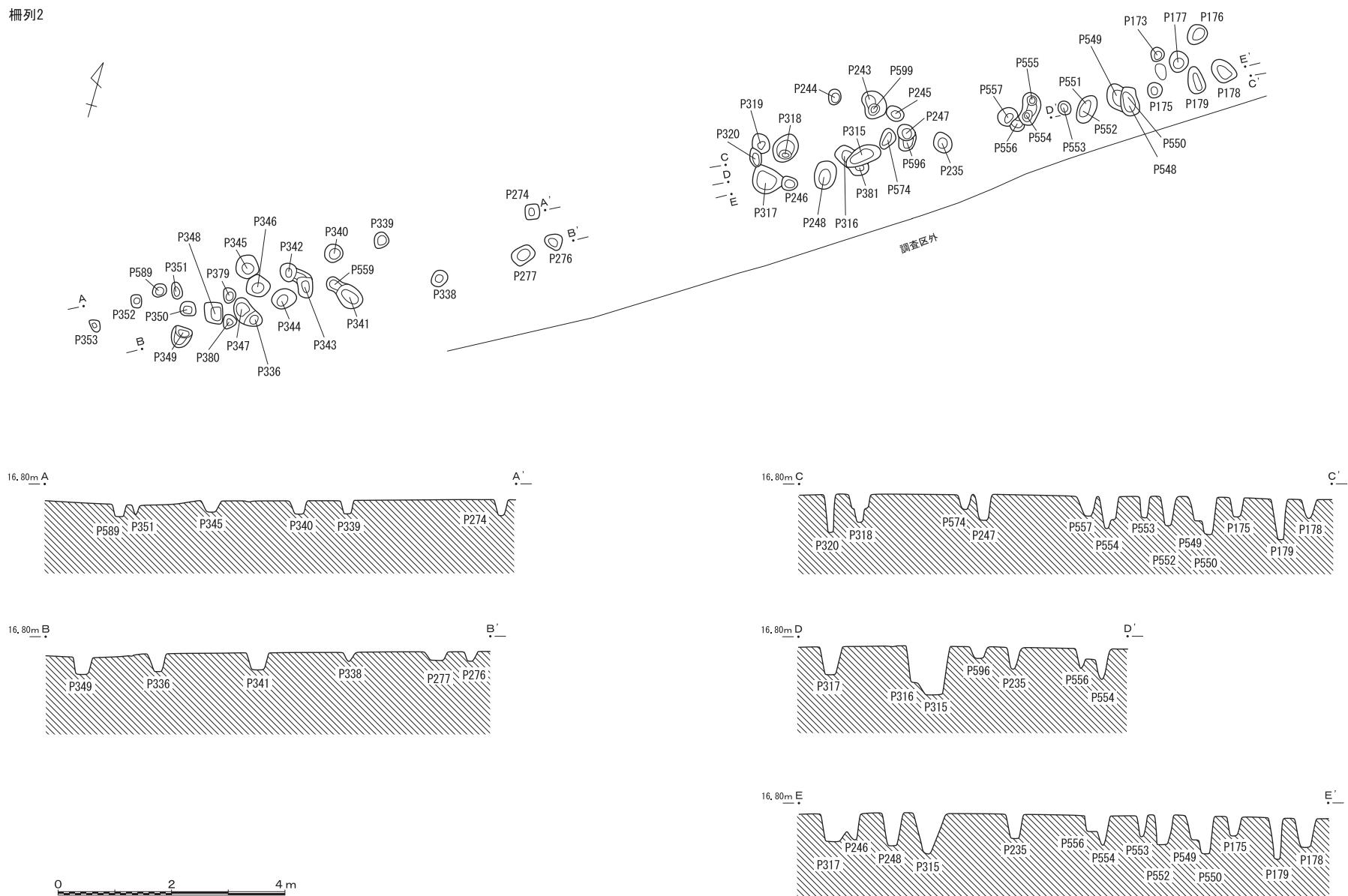
第9図 本村遺跡第84地点 溝1・2 (1/50, 1/100)

段切り状遺構・柵列1



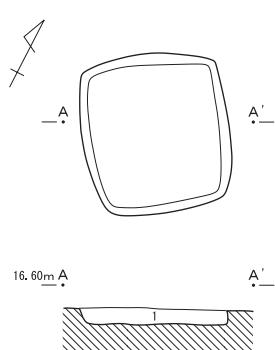
第10図 本村遺跡第84地点 段切り状遺構・柵列1 (1/100)

柵列2



第11図 本村遺跡第84地点 柵列2 (1/100)

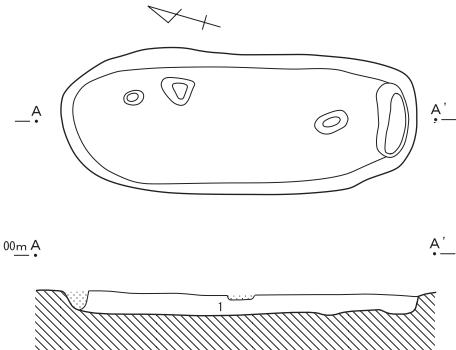
土坑1



土坑1

1. 黒褐色土、粘性あり、締まり弱、ローム粒(5mm以下)多量。

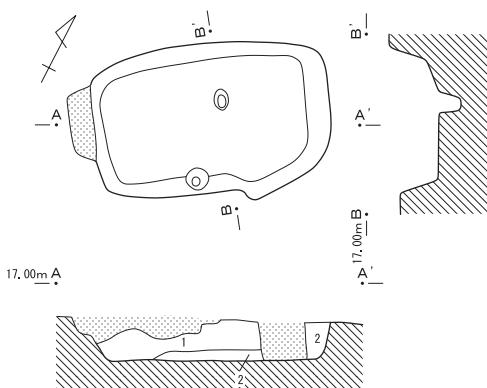
土坑11



土坑11

1. 極暗褐色土、粘性あり、締まり弱、ロームブロック(10mm以下)多量。

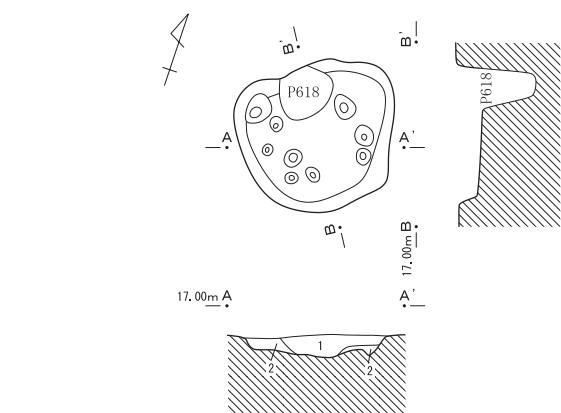
土坑12



土坑12

1. 極暗褐色土、粘性あり、締まり弱、ロームブロック(10mm大)多量  
しみ状暗褐色土多量。  
2. 暗褐色土、粘性あり、締まり弱、ロームブロックと黒褐色土の混合土

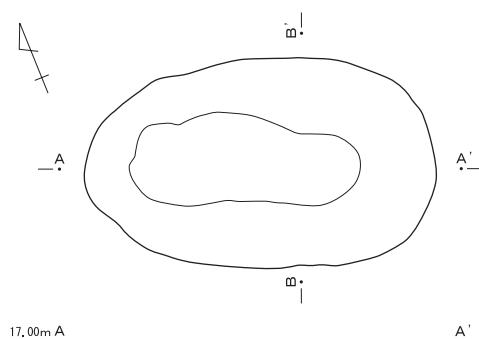
土坑20



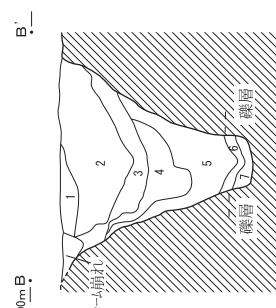
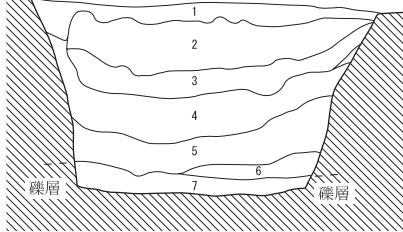
土坑20

1. 黒褐色土、粘性あり、締まり弱、しみ状に暗褐色土多量  
2. 黒褐色土、粘性あり、締まり弱、ロームブロック(20mm以下)多量

土坑26

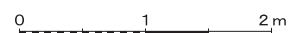


17.00m A



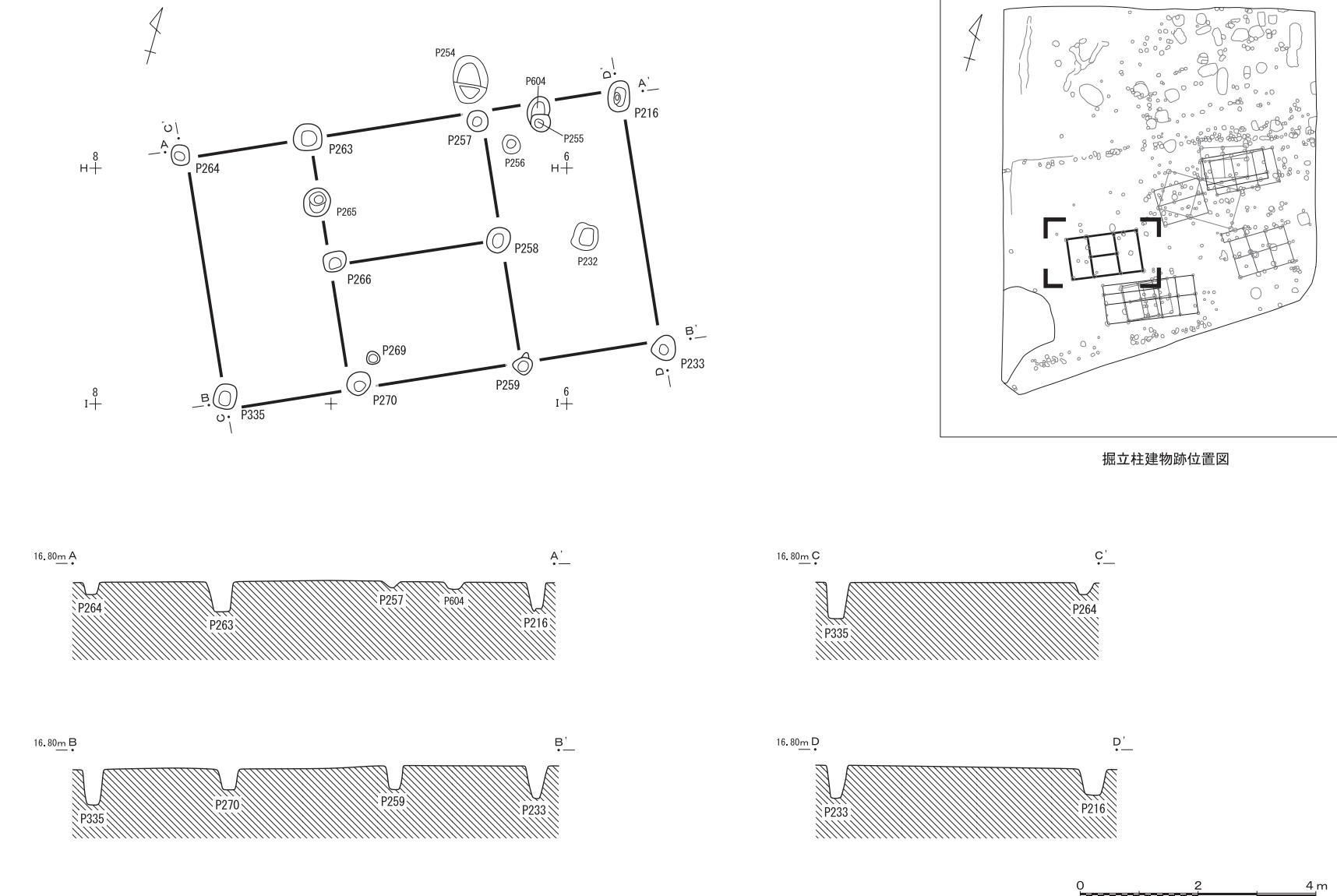
土坑26

1. 黒褐色土、粘性あり、締まり弱、炭化物(2mm以下)多量。  
ローム粒(2mm以下)少量  
2. 黒褐色土、粘性あり、締まりやや強、炭化物(2mm以下)多量。  
ローム粒(5mm以下)多量  
3. 暗褐色土、粘性あり、締まりやや強、炭化物(2mm以下)・  
ローム粒(2mm以下)多量  
4. 褐色土、粘性あり、締まりやや強、ロームブロックと暗褐色土含む  
5. 暗褐色土、粘性あり、締まりやや強、ローム主体層  
6. 褐色土、粘性あり、締まりやや強、しみ状に炭化物の層  
7. 暗褐色土、礫(コブシ大)含む



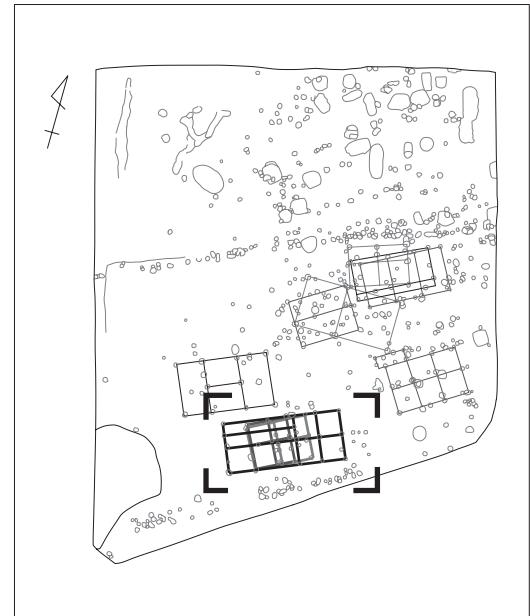
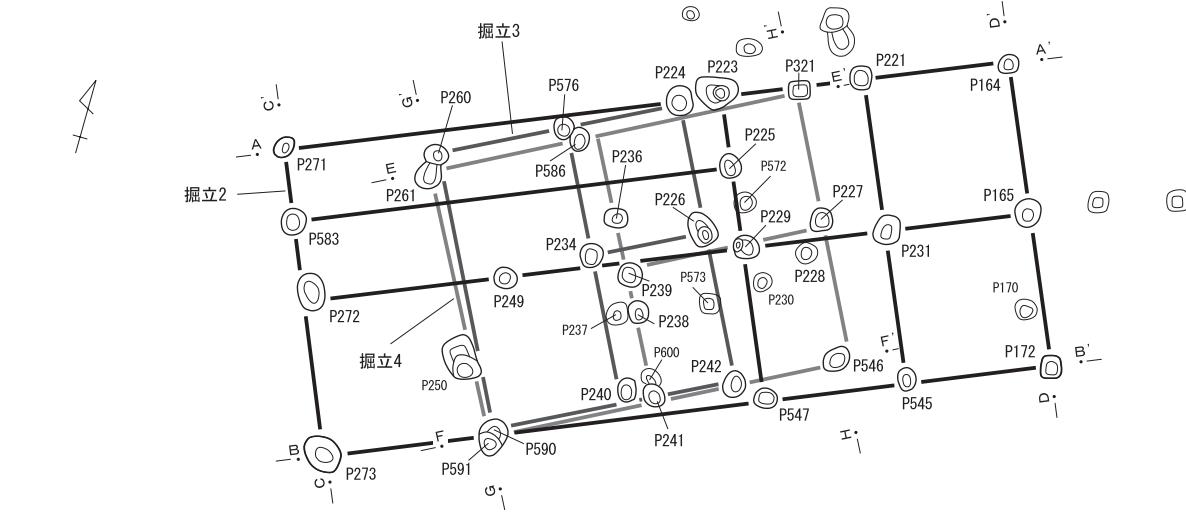
第12図 本村遺跡第84地点 土坑 1・11・12・20・26 (1/60)

掘立柱建物跡1

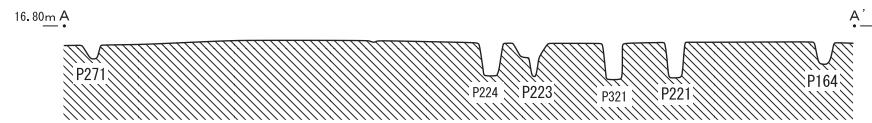


第13図 本村遺跡第84地点 掘立柱建物跡 1 (1/100)

掘立柱建物跡2・3・4

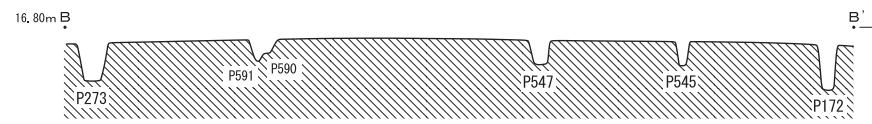


掘立柱建物跡位置図



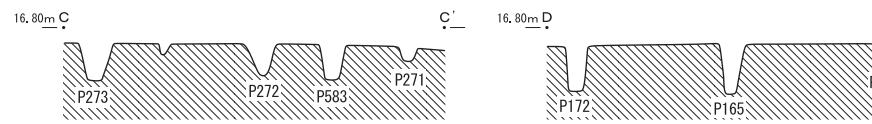
A'

掘立2



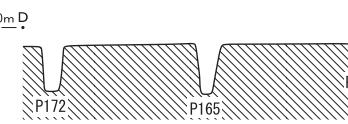
B'

掘立2



C'

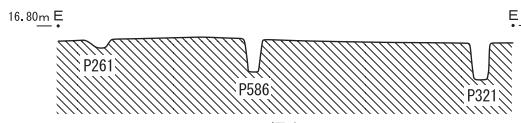
掘立2



D'

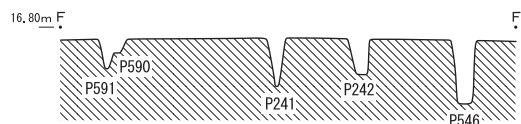
掘立2

0 2 4 m



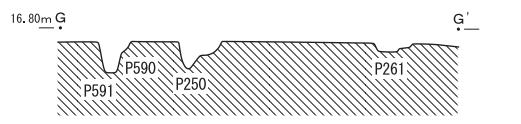
E'

掘立4



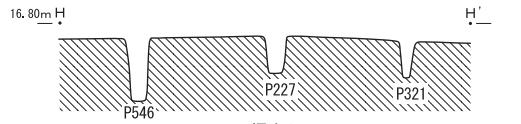
F'

掘立4



G'

掘立3・4

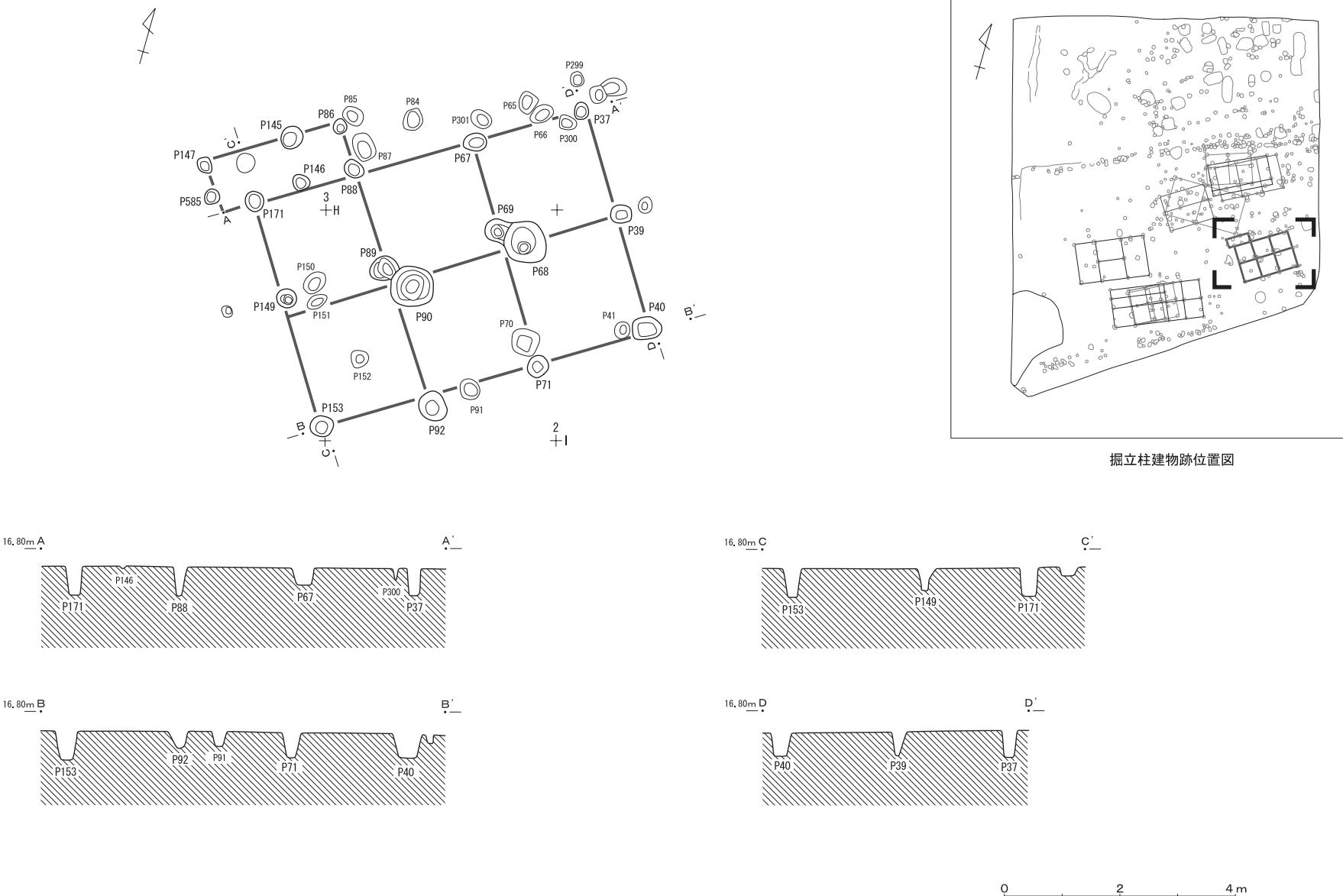


H'

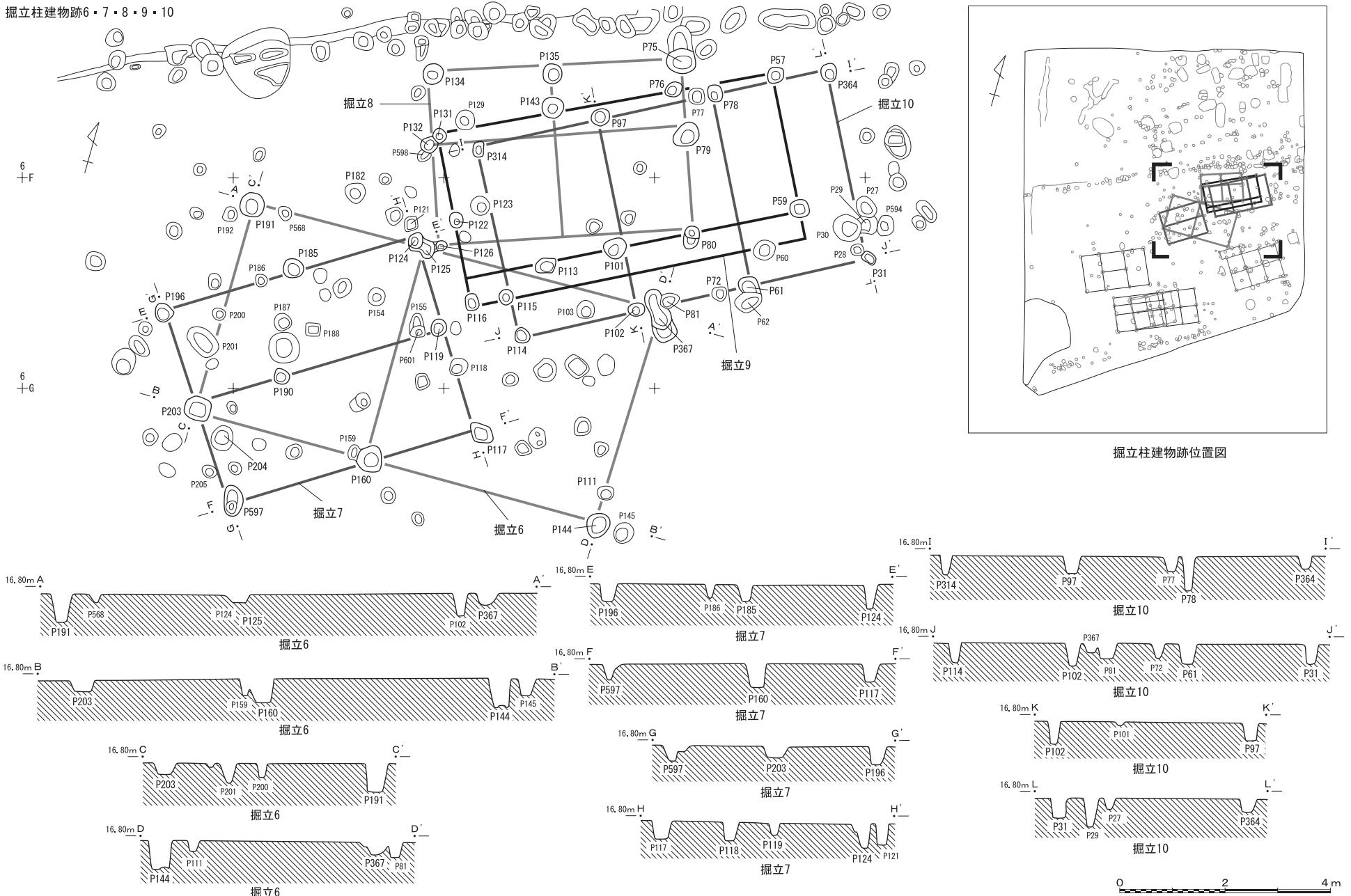
掘立4

第14図 本村遺跡第84地点 掘立柱建物跡 2～4 (1/100)

掘立柱建物跡5



第15図 本村遺跡第84地点 掘立柱建物跡 5 (1/100)



側柱とし、平面形は桁行680cm、梁行370cmの長方形を呈す（第16図）。面積は25.16m<sup>2</sup>で柱間は桁行が三間、梁行が一間である。柱間寸法は桁行のP 364～78間とP 78～97間は220cmでP 97～314間は240cmである。梁行はP 364～31間が370cmと長い。ただし東端の梁行に位置するP 29と西端の梁行に位置するP 115が本建物に伴うものであれば、梁行の柱間距離は300cmと70cmとなる。

（梶原 勝・小林照子）

## ②遺物

本地点から出土した古代以降の遺物は、21点と少ない。内訳は第6表に示したが、半数以上が井戸1からの出土である。これらのほかに井戸1・2から礫が多く出土し、特に井戸1からが多い。図示できた遺物に関しては第5表の観察表を参照してほしいが、補足すると、井戸1からは13世紀代の所産と考えられる6の知多古窯系擂鉢と7の在地系瓦質片口鉢が出土している。最も時期の新しいものは15世紀後半の所産とされる5の知多古窯系擂鉢が出土しているため、井戸1の廃絶も15世紀後半頃から16世紀前半にかけてのことであろう。また井戸1からは須恵器片を利用した転用砥が3点出土している。そのほか上州産と考えられる13の砥石が出土しているが、下側面と欠損面を除きすべて砥面となっており、断面形も長方形と非常に整った形態を呈している。近世の上州砥にみられる、平鑿痕

や櫛歯状工具痕はみられない。土坑26から出土した14の片口鉢と考えられる須恵器質の製品は、成・整形のあり方が7の瓦質片口鉢に近く、口縁部の形態にも類似する点がみられるなど、瓦質片口鉢との強い関連が窺え、同様な年代幅の中で生産されたものであろう。

P 78から出土した15の知多古窯系擂鉢は、口縁端部の突出が内外にみられることから、16世紀前半の製品と考えられる。

（梶原 勝）

表土出土の16は泥面子で、大井町周辺では「泥メンチ」と称され、また多種類ある泥面子のなかで最も多く採集される芥子面である。「芥子面」という呼称は喜多村信節『嬉遊笑覧』の「芥子面とて、唾にて指のはらに付る小瓦の面ありしが、」という記述が由来となっているが、16のように裏面が平坦なタイプのものについては、「指人形」とするには疑念を抱かざるを得ない。「芥子面」の呼称が該当するのは裏面に窪みがあるものであり、裏面が平坦なものはおはじきや、その地方固有の遊びの駒や玉として使われていたとする方が適切であり、このタイプのものについては別称を用いるべきではないかと考えられるが、ここでは従来の「芥子面」の呼称を用いておく。16のモチーフは鬼のような怪物であり、裏面に型抜き時の串穴が2カ所と成形時の指頭圧痕が認められる。胎土は橙色を呈し、江戸在地系のものと推定される。（前山由美子）

第3表 本村遺跡第84地点 出土遺物観察表（1）縄文土器

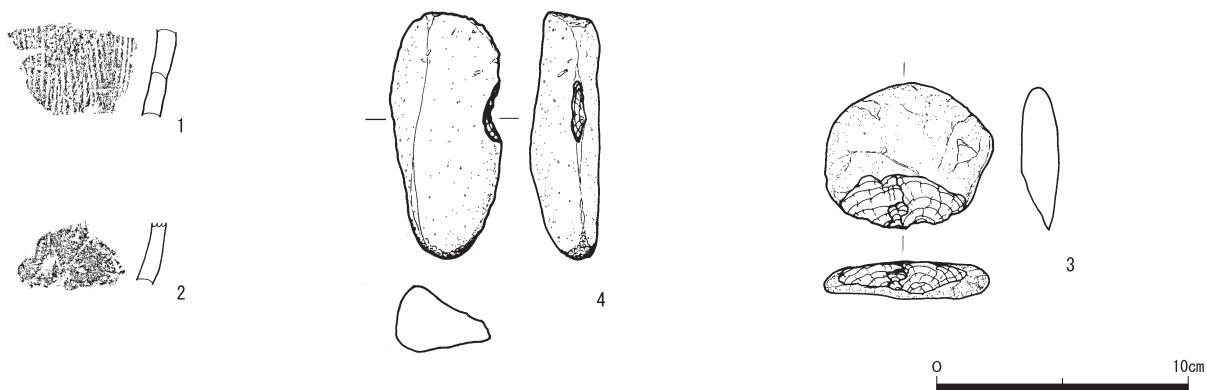
備考欄の写番号は写真図版番号

図版番号	掲載番号	遺構名	出土状況	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	遺存部位	器形	地文	文様要素	分類(細分)			型式	備考
											6期区分	群	類		
17	1	トレンチ6	包含層	不明	不明	34.0	胴部破片	深鉢	櫛歯状条線	-	中期	VIII	-	曾利系・中期末葉？	写6
	2	トレンチ6	包含層	不明	不明	24.5	胴部破片	深鉢	縄文	-	中期	V	?	不明	写6

第4表 本村遺跡第84地点 出土遺物観察表（2）縄文石器

備考欄の写番号は写真図版番号

図版番号	掲載番号	遺構名	分類			石材	遺存部位	長/高(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
			器種	群	類							
17	3	井戸3	スクレーパー	I	-	ホルンフェルス	A	5.8	6.7	1.5	70.7	扁平礫使用／写6
	4	井戸1	敲石	II	-	ホルンフェルス	A	9.7	4.4	2.8	125.7	写6



第17図 本村遺跡第84地点 出土遺物 (1) 繩文土器・石器 (1/3)

第5表 本村遺跡第84地点 出土遺物観察表 (3) 古代以降

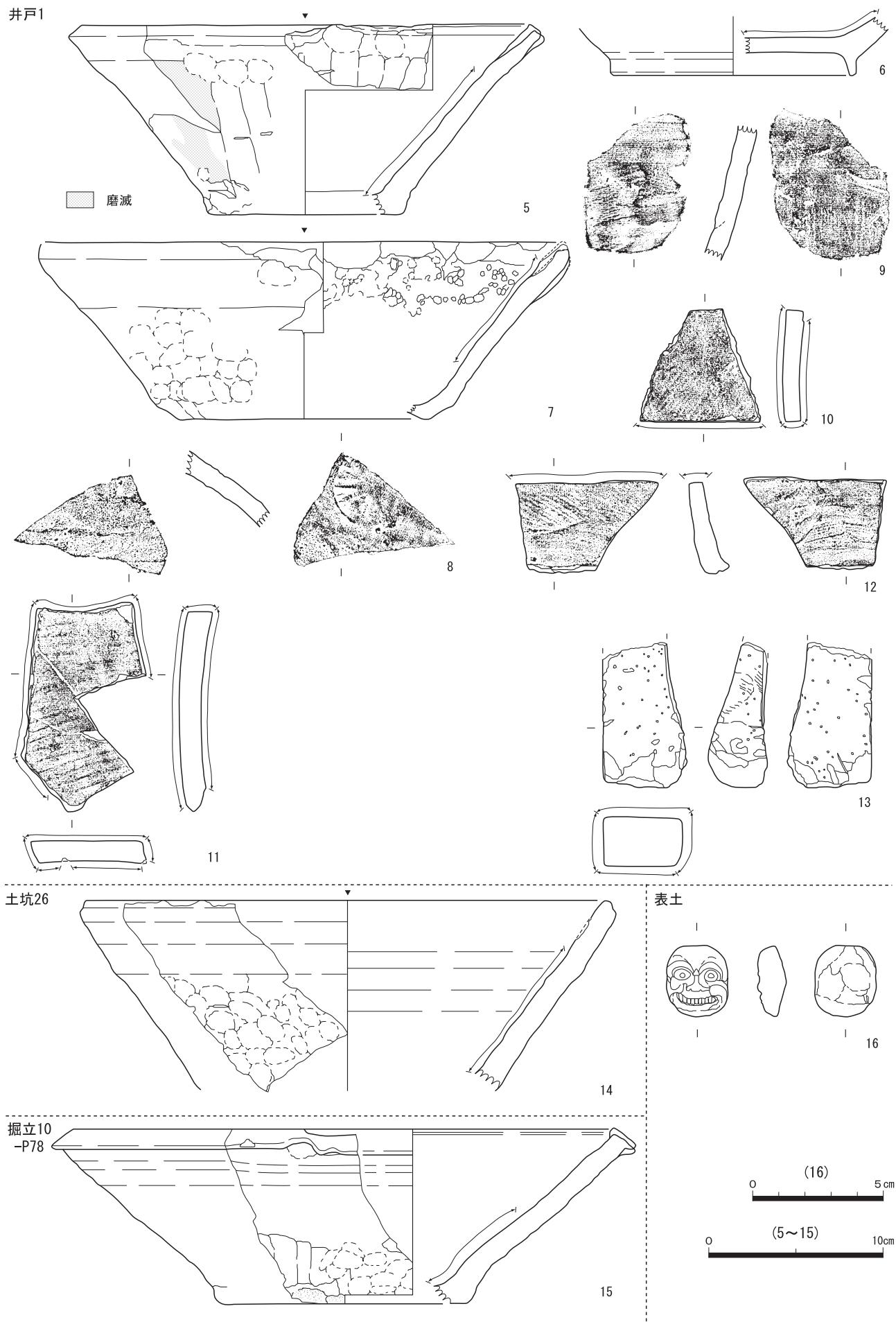
備考欄の巻頭番号は巻頭図版番号、写番号は写真図版番号

図版番号	掲載番号	遺構名 出土地点	種別・器種	単位cm 推定( ) 残存<>			技法／文様／その他	推定生産地	推定年代	残存／備考
				口径	底径	器高				
18	5	井戸1	焼締陶器・擂鉢	(25.6)	(11.2)	(10.8)	紐積み成形、片口部指頭圧痕、口縁部横ナデ、体部下からヘラケズリ、腰部指頭圧痕、底裏砂底／外面の一部と内面磨耗	知多	15世紀後半	1/2以下／写6
	6	井戸1	焼締陶器・擂鉢	-	(14.0)	<3.2>	紐積みクロコ形成形、付高台、外面横ナデ、内面磨耗	知多	13世紀前半	1/2以下／山茶碗系写6
	7	井戸1	瓦質土器・片口鉢	(29.6)	(14.4)	(10.1)	紐積み成形、片口部指頭圧痕、外面体部上半横ナデ、体部下半指頭圧痕、内面口縁部打ち欠き／体部敲打痕と磨耗	在地	13世紀後半	1/2以下／巻頭7写6
	8	井戸1	焼締陶器・大甕	-	-	<4.8>	紐積み成形、内外面横ナデ／押印菊花文	知多	中世	破片／写6
	9	井戸1	焼締陶器・壺	-	-	<8.5>	紐積み成形、外面上半横ナデ、下半櫛齒状工具による搔き上げ、内面上半横ナデ、下半櫛齒状工具と革による横ナデ	渥美	12世紀後半～13世紀前半	破片／写6
	10	井戸1	須恵器・大甕 転用砥	長 幅 6.6	幅 7.0	厚 1.0	紐積み成形、外面部タキ目／内外面と下破断面磨耗	南北企	平安前期	1/2以上／写6
	11	井戸1	須恵器・大甕 転用砥	長 幅 12.2	幅 7.3	厚 1.4	紐積み成形、外面部タキ目／内外面と破断面磨耗	南北企	平安前期	1/2以上／写6
	12	井戸1	須恵器・壺 転用砥	長 幅 8.3	幅 5.4	厚 1.6	紐積み成形、外面部横位と斜位のヘラケズリ、内面横ナデ／上破断面磨耗	南北企	平安前期	1/2以下／写6
	13	井戸1	石製品・砥石	長 <8.5>	幅 <4.9>	厚 <3.4>	上下破断面を除き全面砥面／流紋岩	上州	中世	1/2以上／写6
	14	土坑26	須恵器系陶器・ 片口鉢	(30.0)	-	<10.8>	紐積み成形、外面上半横ナデ・下半指頭圧痕、内面横ナデ／内面上半磨耗・口縁部打ち欠き、胎土に海綿骨針	南北企？	13世紀後半	1/2以下／巻頭7写6
15	掘立10-P78	焼締陶器・擂鉢	(31.0)	(14.0)	10.0	紐積み成形、三口(残存2)部指頭圧痕、口縁部横ナデ、腰部下からヘラケズリと指頭圧痕／内面上半磨耗	知多	16世紀前半	1/2以下／写6	
16	表土	土製品・芥子面 鬼	長 幅 2.7	幅 2.4	厚 1.1	型抜き／裏面に指頭圧痕あり	在地？	近世	完形／写6	

第6表 本村遺跡第84地点 出土遺物集計表 古代以降

出土地点	種別	数	器種	数	細分名	数
井戸1	焼締陶器	7	擂鉢	4	山茶碗系	1
					甕系	3
			壺	1		1
			甕	1		1
	土器	1	大甕	1		1
			不明	1		
	瓦質土器	2	片口鉢	1		
			擂鉢	1		
	石製品	1	砥石	1		
	須恵器	3	壺転用砥	1		
			壺・甕転用砥	2		
	礫	多数				
合 計		14				

出土地点	種別	数	器種	数	細分名	数
井戸2	礫	3				
	合 計	3				
土坑26	須恵器系陶器	1	片口鉢	1		
	合 計	1				
掘立10-P78	焼締陶器	1	擂鉢	1		
	合 計	1				
TP1	磁器	1	碗	1	端反碗	1
	施釉土器	1	不明	1		
	合 計	2				
表土	土製品	1	泥面子	1	芥子面	1
	焼締陶器	1	壺	1		
	合 計	2				
総 計		23				



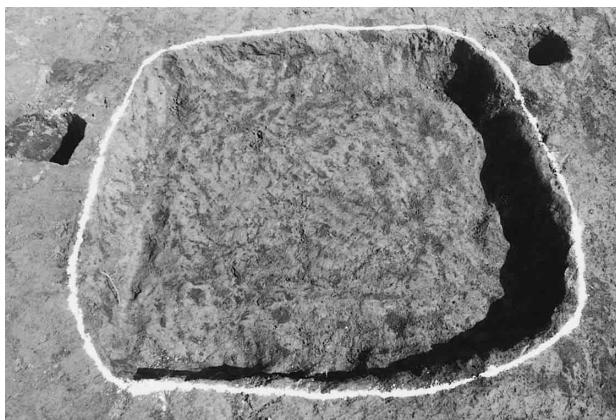
第18図 本村遺跡第84地点 出土遺物 (2) 平安時代以降 (1/2,1/3)



調査区全景



本村遺跡第84地点 落とし穴



本村遺跡第84地点 土坑 1



本村遺跡第84地点 土坑 2



本村遺跡第84地点 土坑 3



本村遺跡第84地点 土坑 4



本村遺跡第84地点 土坑 5



本村遺跡第84地点 土坑 6



本村遺跡第84地点 土坑 7



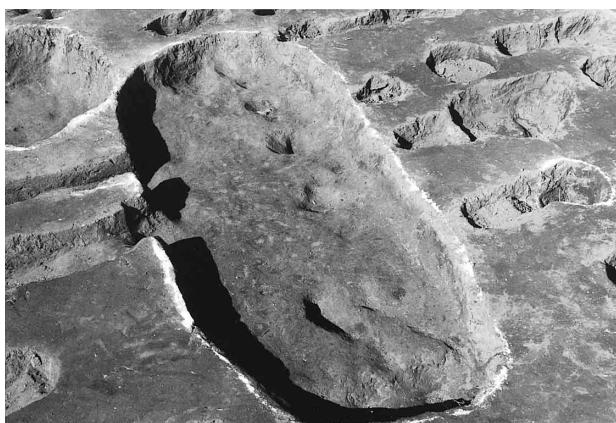
本村遺跡第84地点 土坑 8



本村遺跡第84地点 土坑 9



本村遺跡第84地点 土坑 10



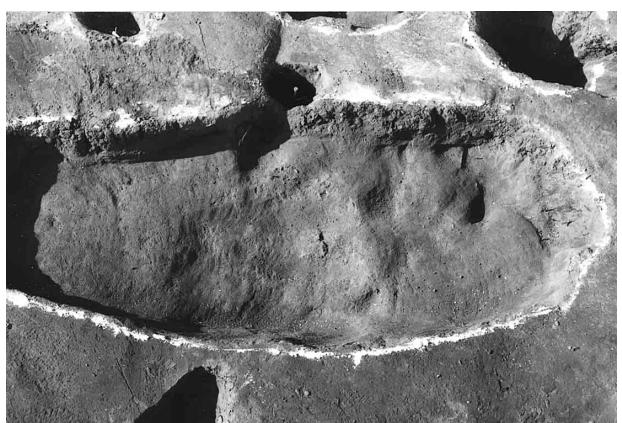
本村遺跡第84地点 土坑 11



本村遺跡第84地点 土坑 12



本村遺跡第84地点 土坑 13



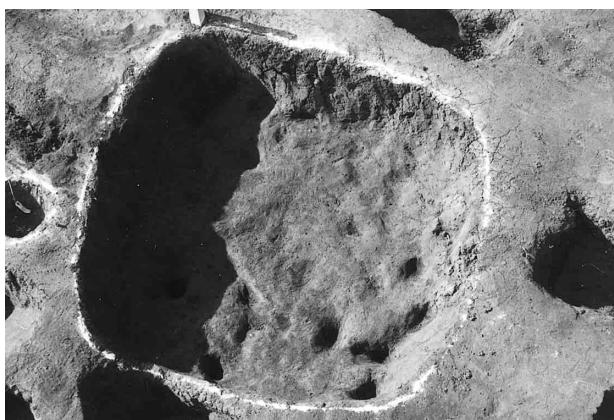
本村遺跡第84地点 土坑 14



本村遺跡第84地点 土坑16



本村遺跡第84地点 土坑17



本村遺跡第84地点 土坑18



本村遺跡第84地点 土坑19



本村遺跡第84地点 土坑20



本村遺跡第84地点 土坑21



本村遺跡第84地点 土坑22



本村遺跡第84地点 土坑23

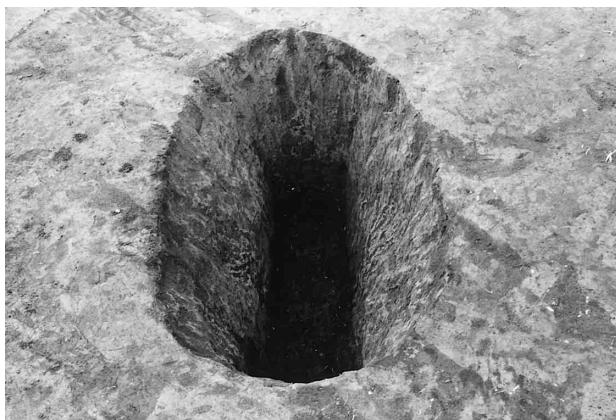
## 本村遺跡第84地点（4）



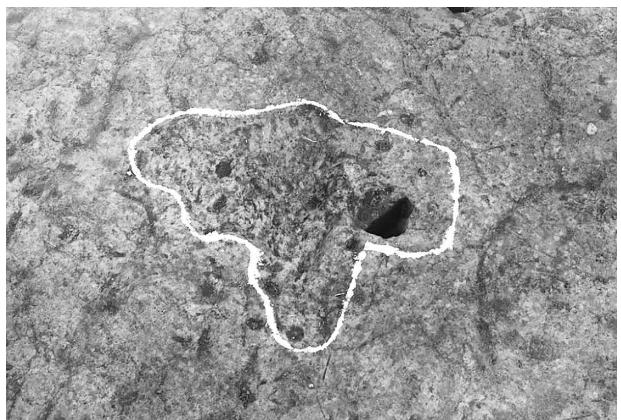
本村遺跡第84地点 土坑24



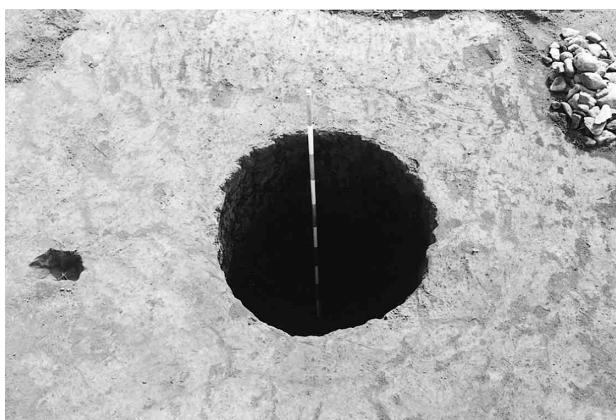
本村遺跡第84地点 土坑25



本村遺跡第84地点 土坑26



本村遺跡第84地点 茶毘跡



本村遺跡第84地点 井戸 1



本村遺跡第84地点 井戸 2



本村遺跡第84地点 溝 1



本村遺跡第84地点 溝 2



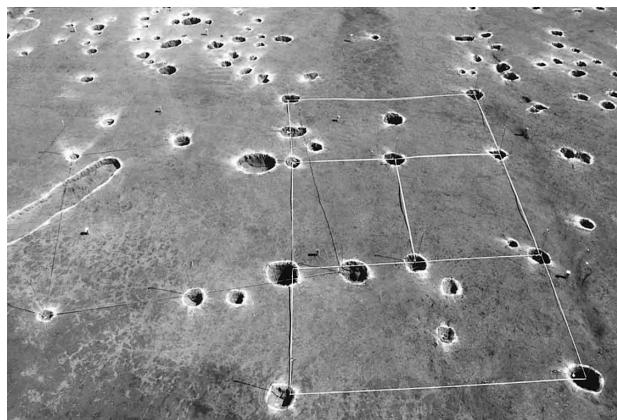
本村遺跡第84地点 段切り状遺構



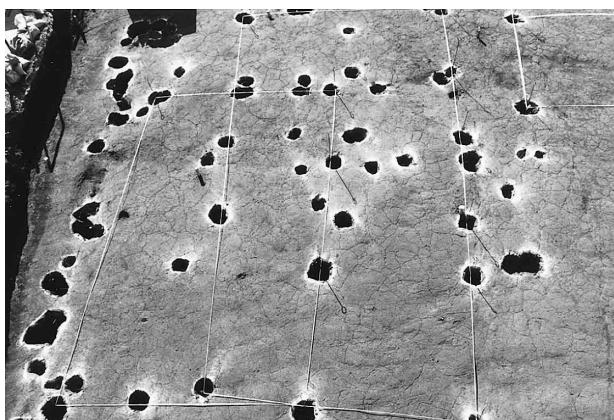
本村遺跡第84地点 柵列1



本村遺跡第84地点 柵列2(西側)



本村遺跡第84地点 掘立柱建物跡1



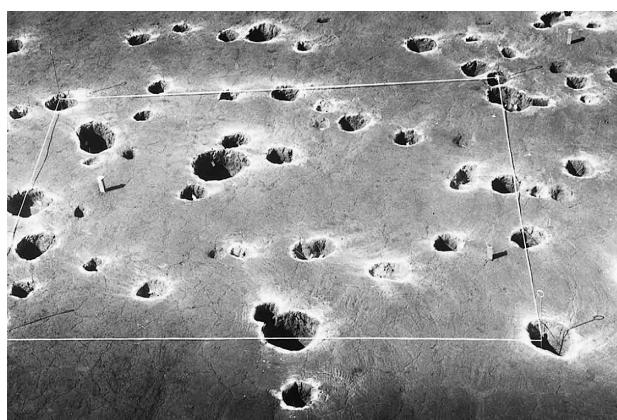
本村遺跡第84地点 掘立柱建物跡2・3・4



本村遺跡第84地点 掘立柱建物跡5



本村遺跡第84地点 掘立柱建物跡5・9・10



本村遺跡第84地点 掘立柱建物跡7(西側)

